

6. 今後の住まい方の意向

(1) 居住継続の意向

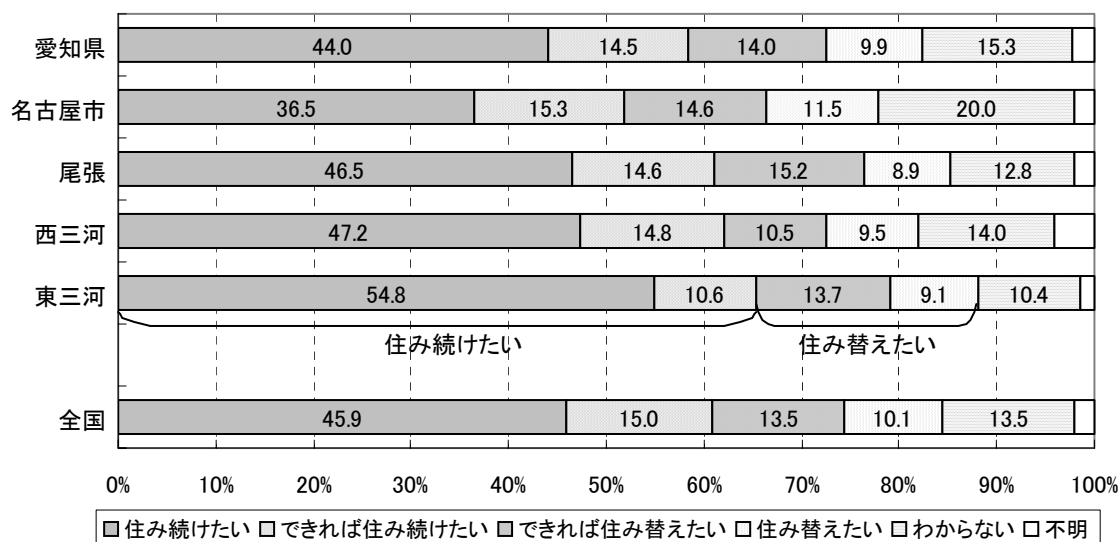
① 愛知県、地域別

現在の住まいに住み続けたいとする世帯（「住み続けたい」と「できれば住み続けたい」の合計）の割合は、愛知県全体で 58.5% であり、全国の 60.9% を 2.4 ポイント下回っている。

地域別にみると、東三河で住み続けたいとする世帯が多く（65.4%）、愛知県全体を 6.9 ポイント上回っている。一方、名古屋市では 51.8% となり、6.7 ポイント下回っている。また、名古屋市では、住み替えたい（「できれば住み替えたい」と「住み替えたい」の合計）の割合が 26.1% であり、愛知県全体の 23.9% を 2.2 ポイント高くなっている。

(図-53) (表-49)

図-53 居住継続の意向

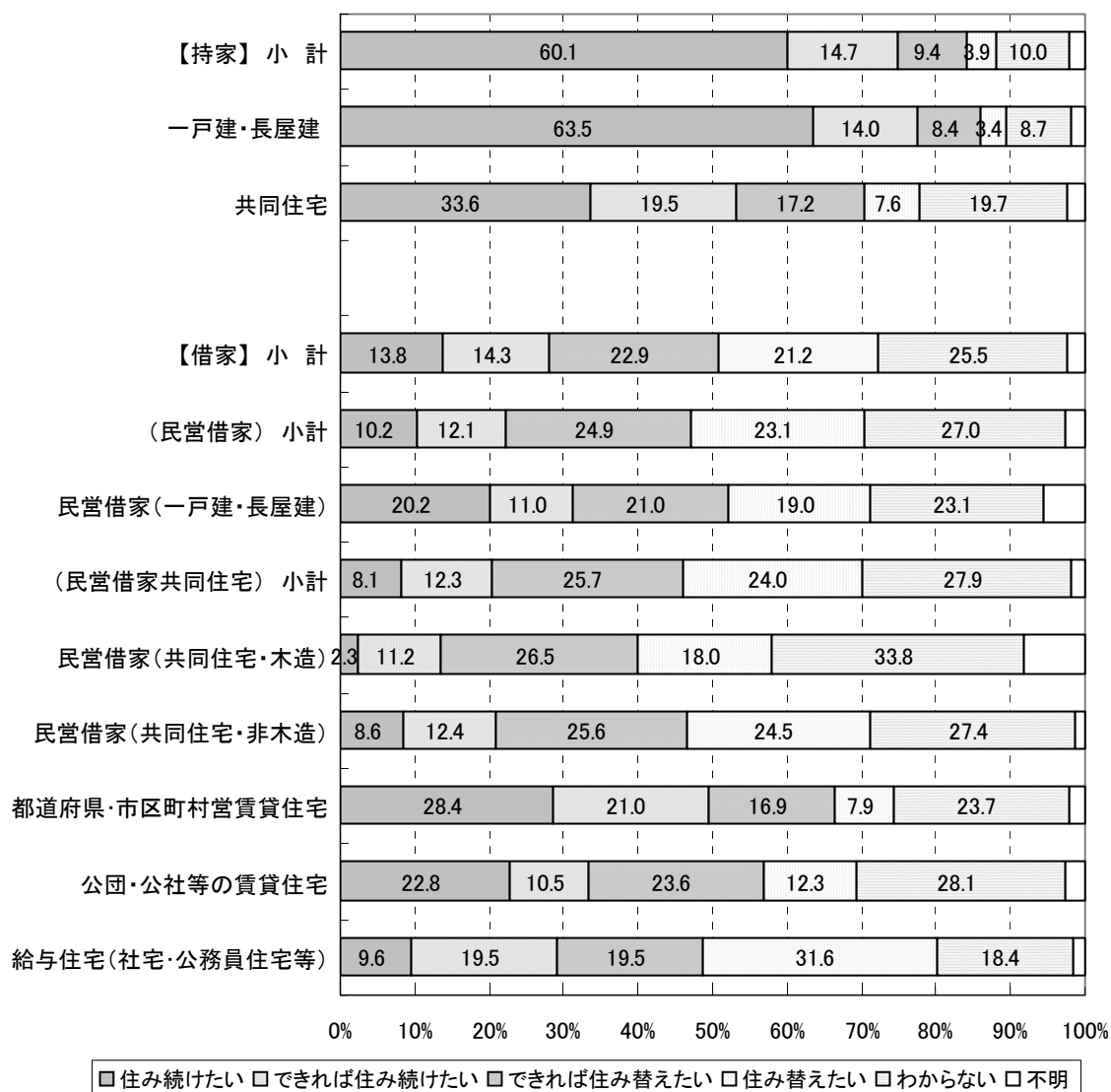


② 住宅タイプ別

住宅タイプ別にみると、現在の住まいに住み続けたいという意向が最も多いのは持家の「一戸建・長屋建」で、77.5%が住み続けたいとしている。一方、持家「共同住宅」では53.1%となっており、「一戸建・長屋建」の持家における継続的な居住意向が強いことがわかる。借家では「民営賃貸住宅（共同住宅・木造）」で住み続けたいとする世帯の割合は、1割程度であるが、「都道府県・市区町村営賃貸住宅」では49.4%、「公団・公社等の賃貸住宅」では33.3%と、公的賃貸住宅では継続的な居住意向が強い。

(図-54) (表-50)

図-54 住宅タイプ別、居住継続の意向



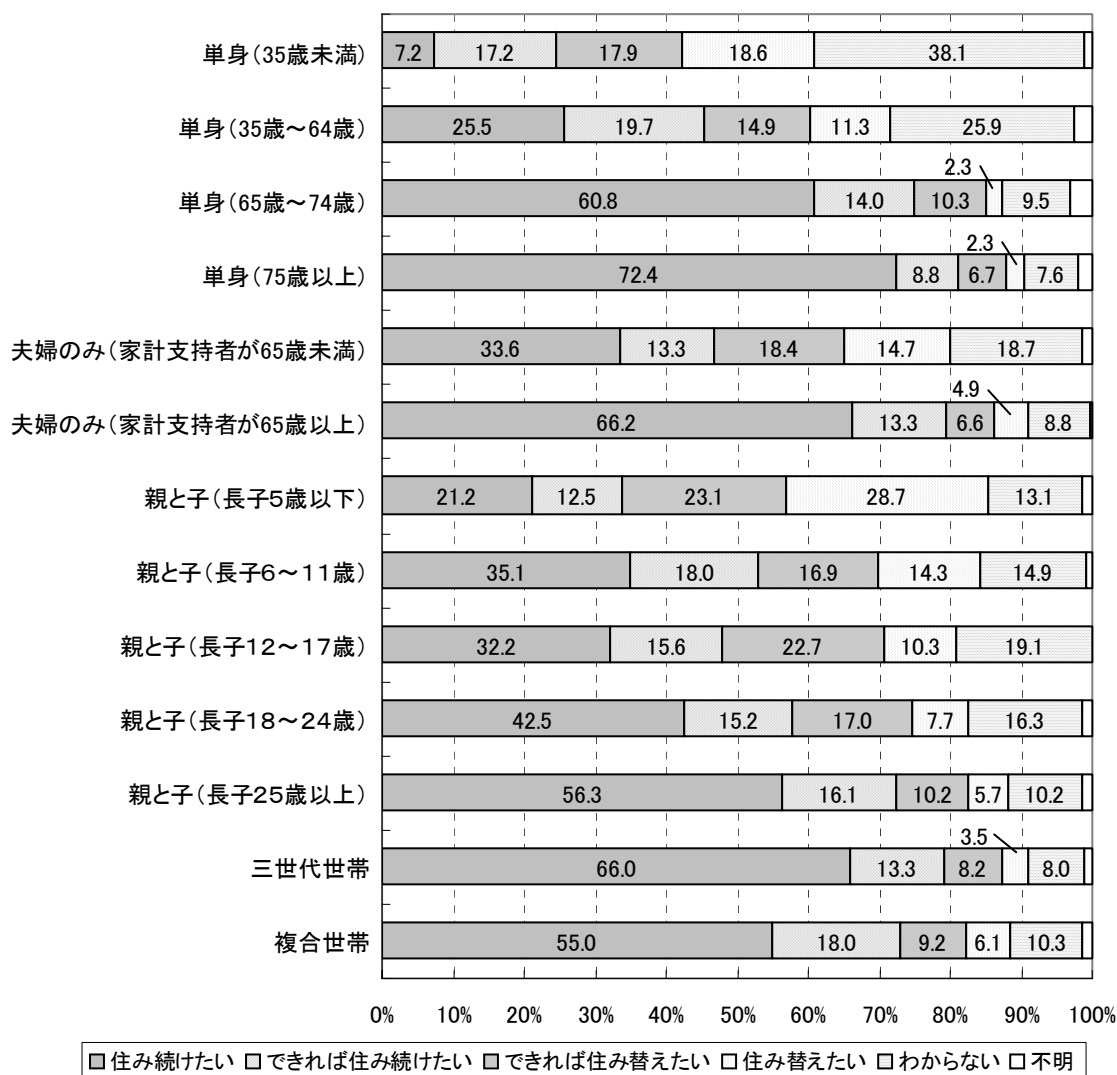
③ 家族型別

家族型別にみると、現在の住まいに住み続けたいという意向が最も多いのは、「単身(75歳以上)」で、81.2%の世帯が住み続けたいとしている。次いで、「夫婦のみ(家計を主に支えるものが65歳以上)」の79.5%、「三世代世帯」79.3%、「単身(65歳～74歳)」74.8%、「親と子(長子25歳以上)」72.4%となっている。

現在の住まいに住み続けたいという世帯の割合が低いのは、「単身(35歳未満)」の24.4%、「親と子(長子5歳以下)」の33.7%である。

(図-55) (表-51)

図-55 家族型別、居住継続の意向



(2) 住まいの所有関係、建て方、新築・中古の区分、立地条件に関する意向

① 愛知県、地域別

今後住み替えるとしたら、「持家」がよいと考える世帯の割合は愛知県全体で 62.2% であり、全国 63.7% と比較すると、1.5 ポイント低くなっている。地域別にみると、東三河が最も高く 70.0% である。また、最も低くなっているのが名古屋市の 54.2% であり、15.8 ポイントの差がある。名古屋市では「特にこだわらない」の割合が高くなっている。

住宅の建て方についてみると、愛知県全体の 60.0% が「一戸建住宅」がよいとしている。地域別では、東三河が最も高く 70.2% である。また、最も低くなっているのが名古屋市の 50.4% であり、19.8 ポイントの差がある。この二つの地域をみると、「共同住宅(マンションなど)」についての意向で大きな差がでている(名古屋市 12.2%、東三河 4.4%、7.8 ポイント差)。

(図-56-1～図-56-2) (表-52)

図-56-1 住まいに関する意向 (所有関係)

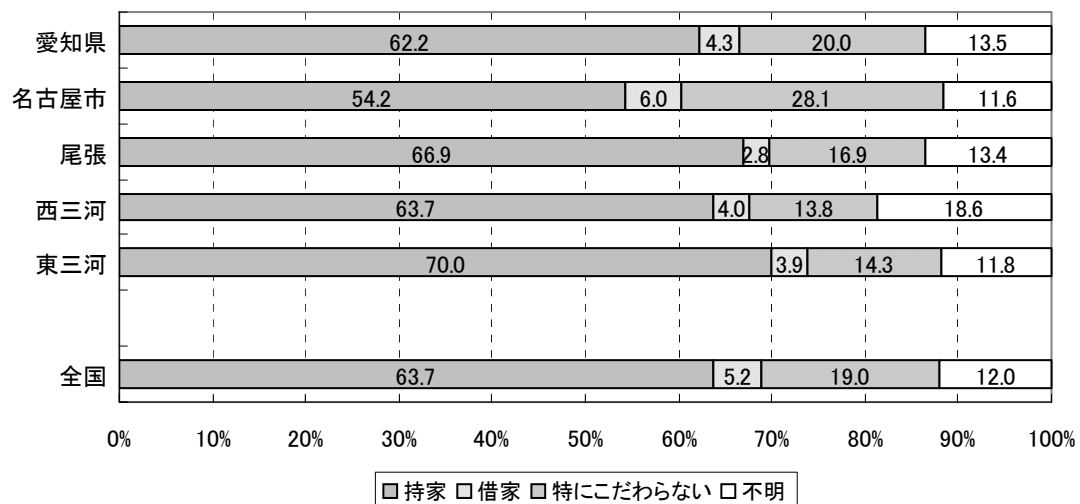
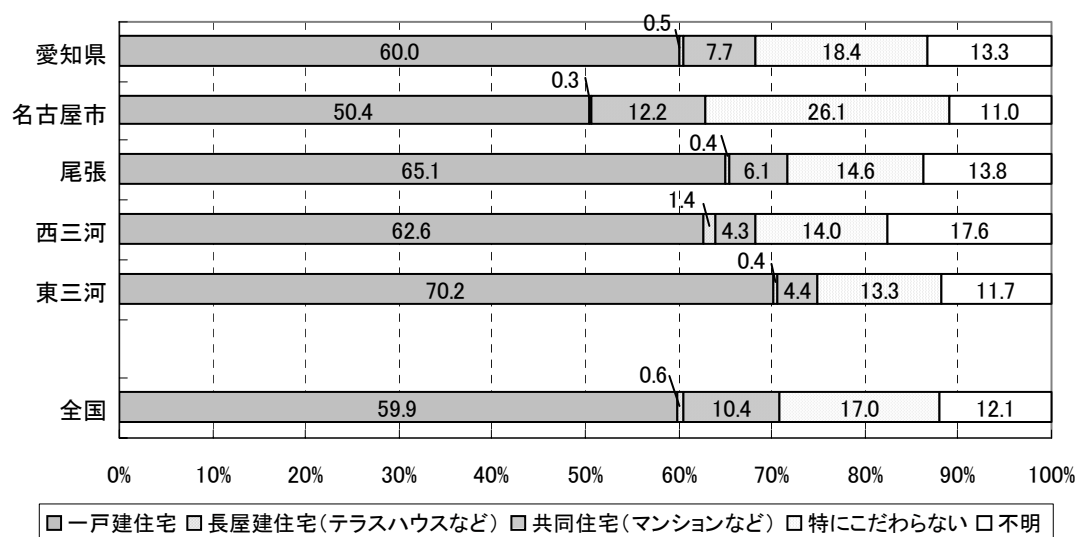


図-56-2 住まいに関する意向 (建て方)



新築・中古の別についてみると、「新築住宅」がよいとする世帯の割合は愛知県全体で53.0%と最も高いが、「特にこだわらない」とする割合も30.0%ある。地域別にみると、愛知県全体と同様の傾向がみられるが、名古屋市では「新築住宅」と「特にこだわらない」のポイント差が7.7ポイントと小さいのになら、他地域ではその差が30ポイント以上と大きくなっており、「新築住宅」の意向の強さがわかる。

立地についてみると、愛知県全体では「郊外」がよいと考える世帯が31.3%、「特にこだわらない」が25.8%、「街なかや都市の中心部」がよいとする世帯が15.9%である。その傾向は、全国と同様である。地域別にみると、名古屋市では「街なかや都市の中心部」とする世帯が23.4%であるのに対し、他地域では10%程度となっており、「郊外」がよいと考える世帯の割合が高くなっている。

(図-56-3～図-56-4) (表-52)

図-56-3 住まいに関する意向（新築・中古の区分）

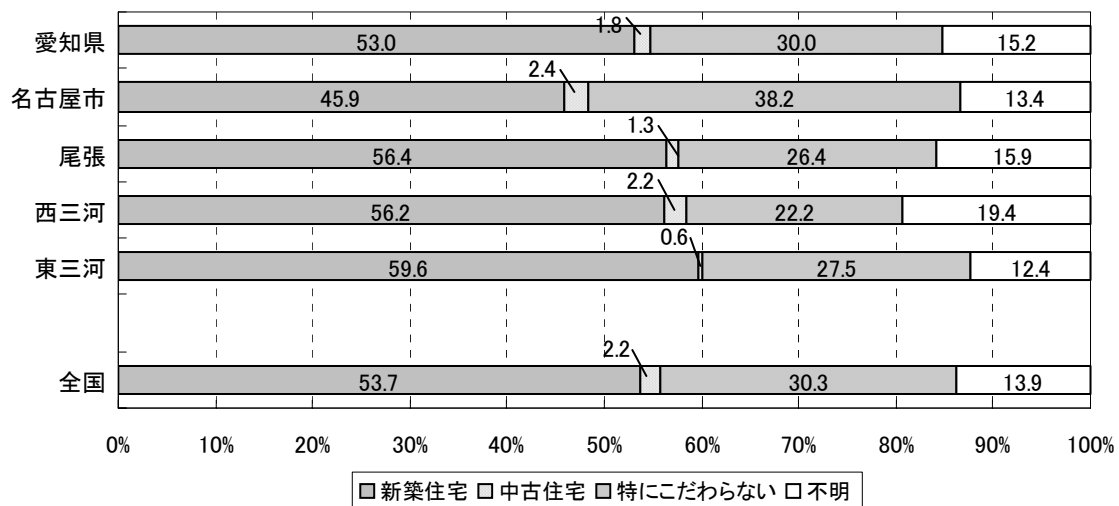
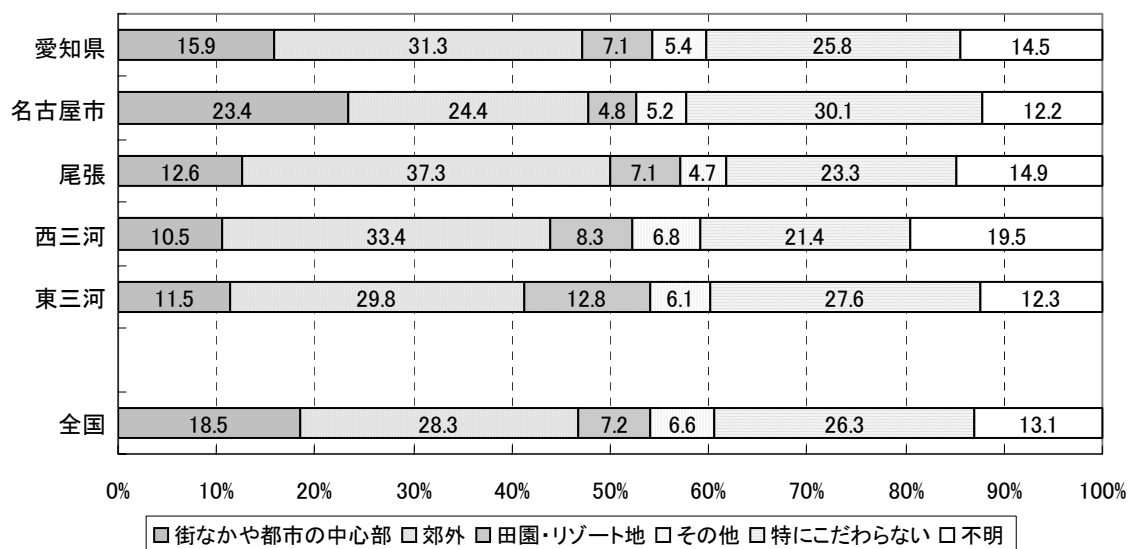


図-56-4 住まいに関する意向（立地条件）

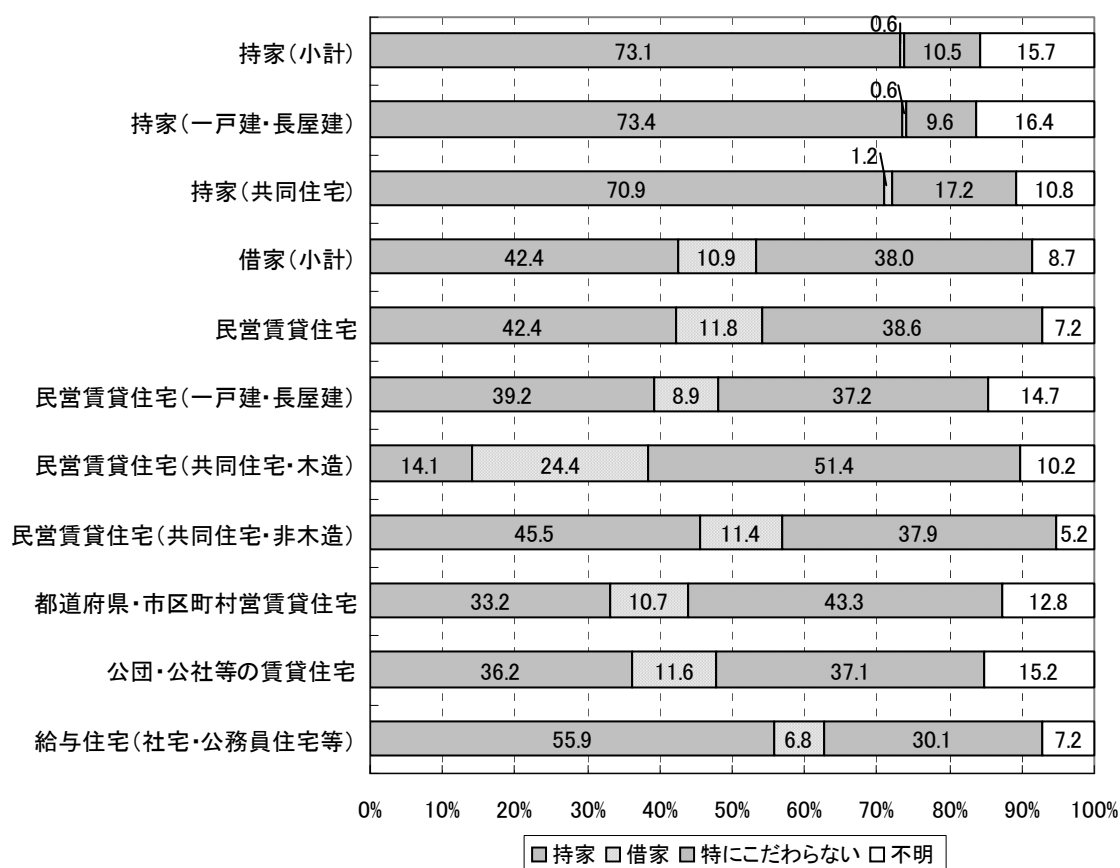


② 住宅タイプ別

住宅タイプ別にみると、ほとんどの住宅タイプにおいて、今後住み替えるとした場合の住宅の所有関係は、「持家」がよいと考える世帯の割合が最も多い。建て方別にみると、持家では「一戸建・長屋建」「共同住宅」共に70.0%を超える高い割合で「持家」がよいとしているが、借家では「持家」と「特にこだわらない」とが近い割合となっている。また、「民営賃貸住宅（共同住宅・木造）」では「特にこだわらない」が最も多く、「借家」が2番目に多くなっている。

(図-57-1) (表-53)

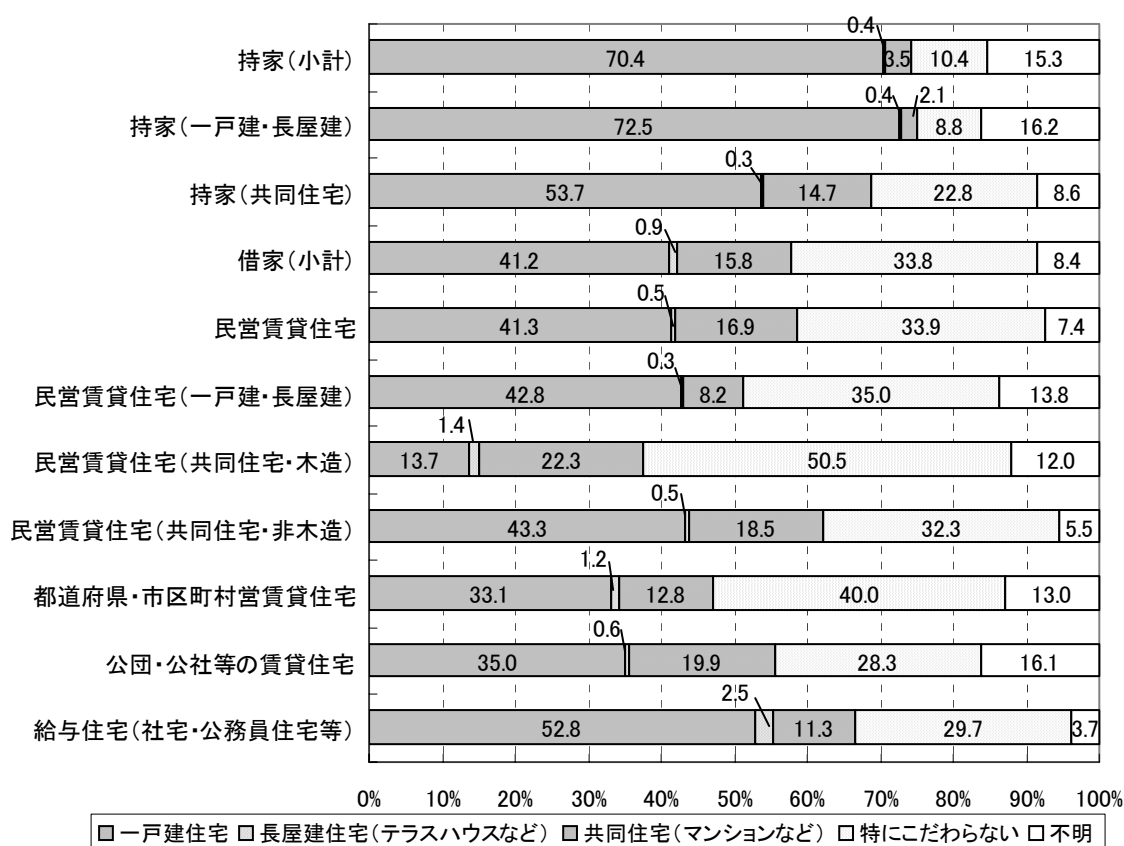
図-57-1 住宅タイプ別、住まいに関する意向（所有関係）



住宅の建て方についても、ほとんどの住宅タイプで「一戸建住宅」がよいと考える世帯が最も多い。持家では、現在の住宅が「一戸建・長屋建」の世帯は「一戸建」の意向が高い(72.5%)が、「共同住宅」では 53.7%であり、「特にこだわらない」とする世帯も 22.8%ある。また、借家では、「民営賃貸住宅（共同住宅・木造）」で「特にこだわらない」が最も多いほかは、「一戸建住宅」と「特にこだわらない」とが近い割合となっている。

(図-57-2) (表-53)

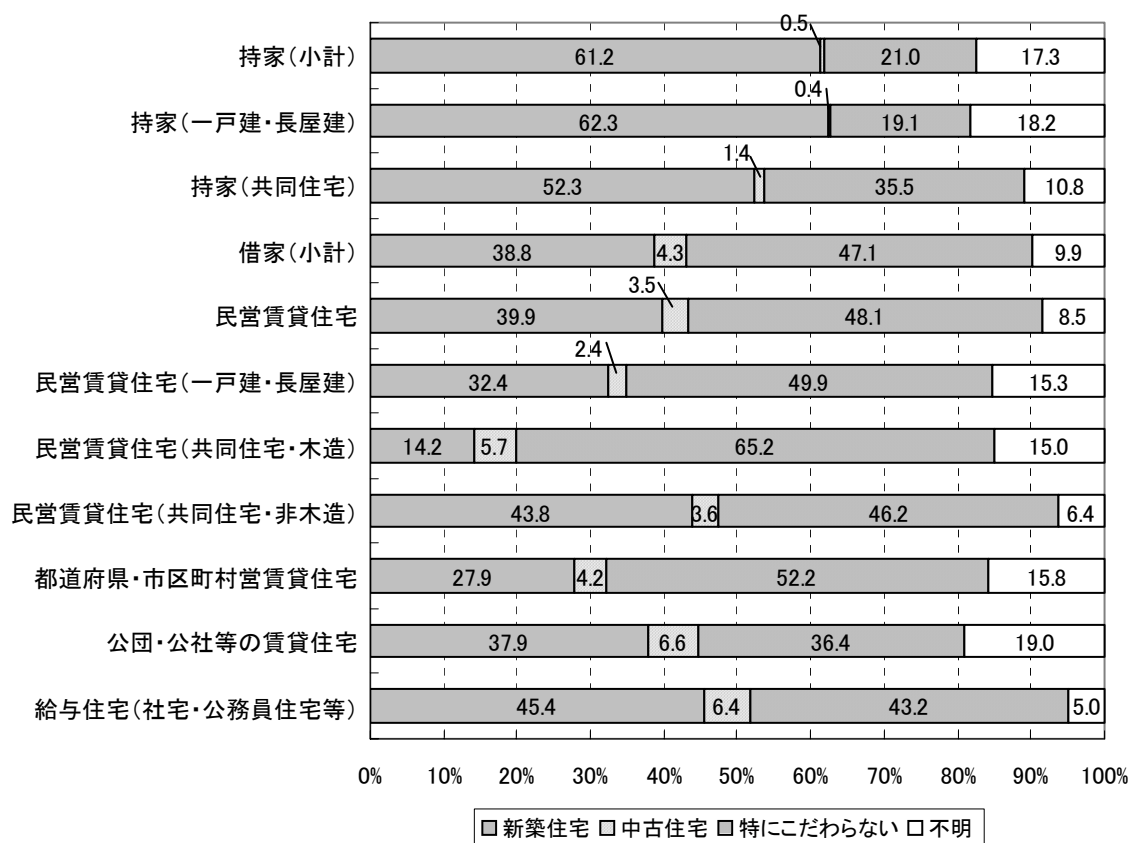
図-57-2 住宅タイプ別、住まいに関する意向（建て方）



新築・中古の別についてみると、現在「持家」に居住している世帯と「公団・公社等の賃貸住宅」、「給与住宅」に居住している世帯では「新築住宅」がよいとする世帯が多いが、その他の借家世帯では「特にこだわらない」とする世帯が多い。

(図-57-3) (表-53)

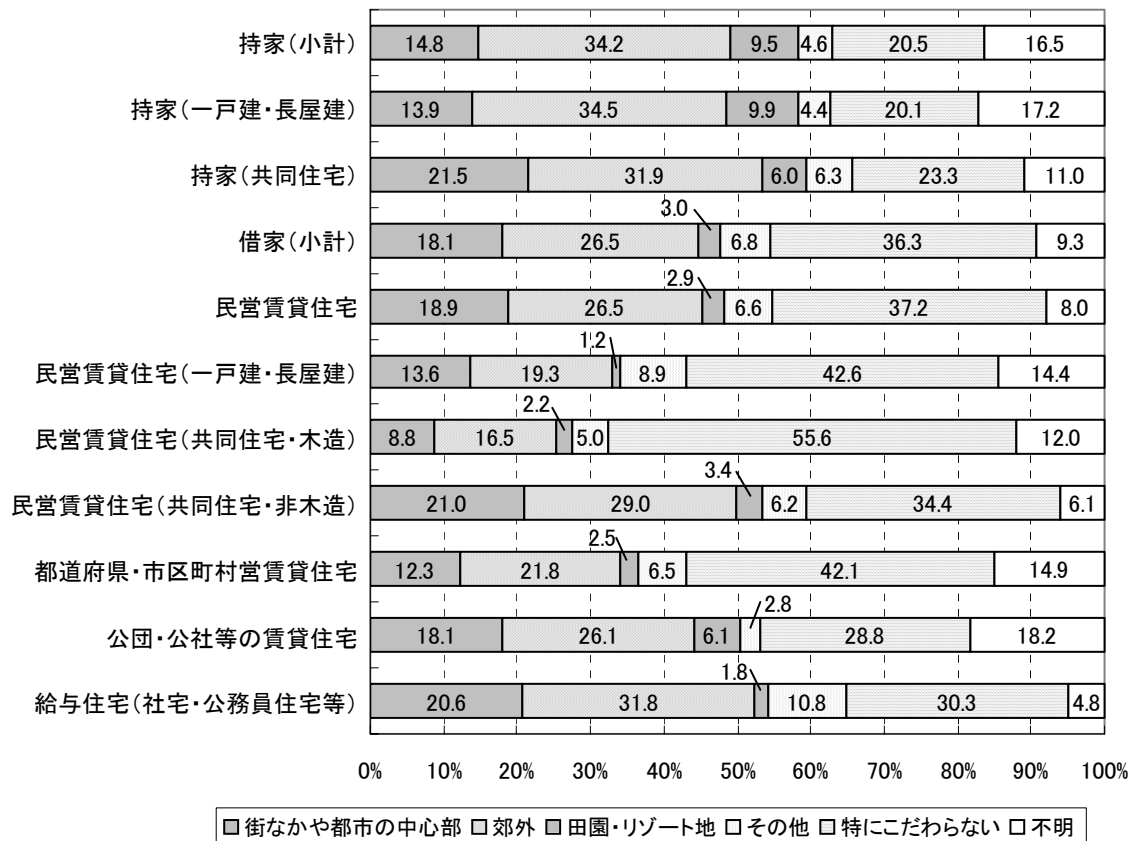
図-57-3 住宅タイプ別、住まいに関する意向（新築・中古の区分）



立地についてみると、「持家（一戸建・長屋建）」、「持家（共同住宅）」、「給与住宅」では「郊外」がよいと考える世帯が多く、そのほかでは「特にこだわらない」が最も多くなっている。

(図-57-4) (表-53)

図-57-4 住宅タイプ別、住まいに関する意向（立地条件）

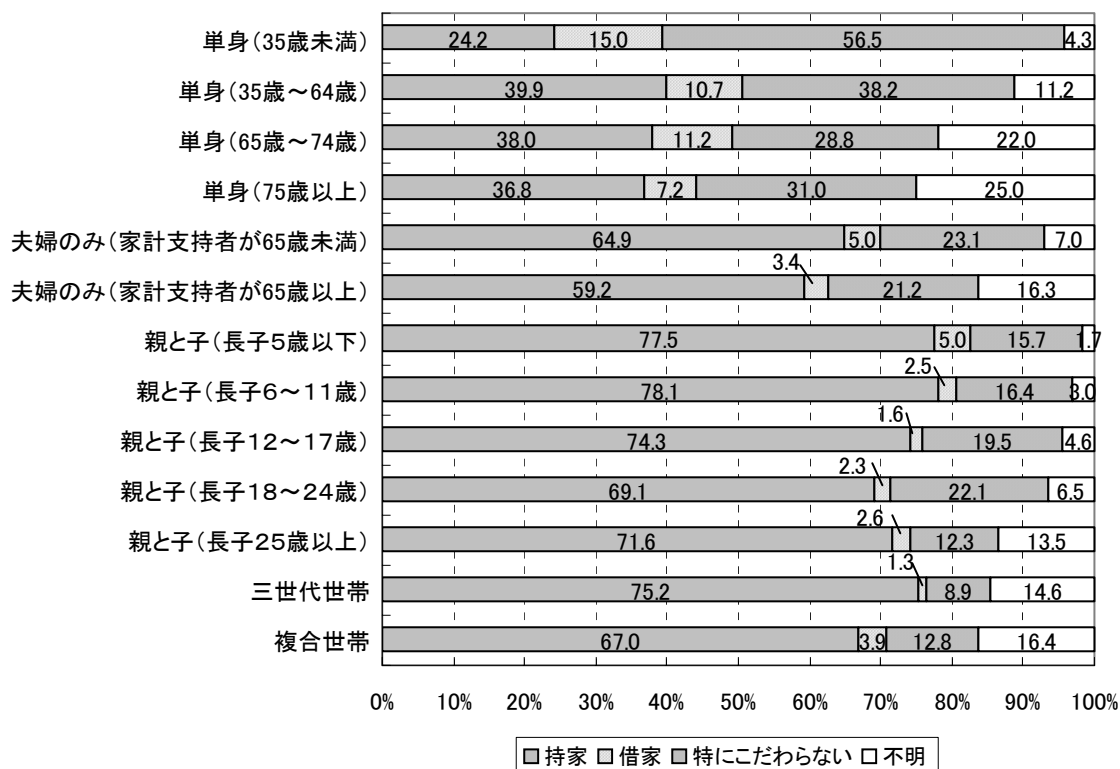


③ 家族型別

家族型別に今後住み替えるとした場合の住宅の所有関係についてみると、「単身（35歳未満）」では「特にこだわらない」が最も多く、次いで「持家」となっている。他の家族型では「持家」が最も多い。特に「親と子」、「三世代世帯」、「複合世帯」では約7割と高くなっている。

(図-58-1) (表-54)

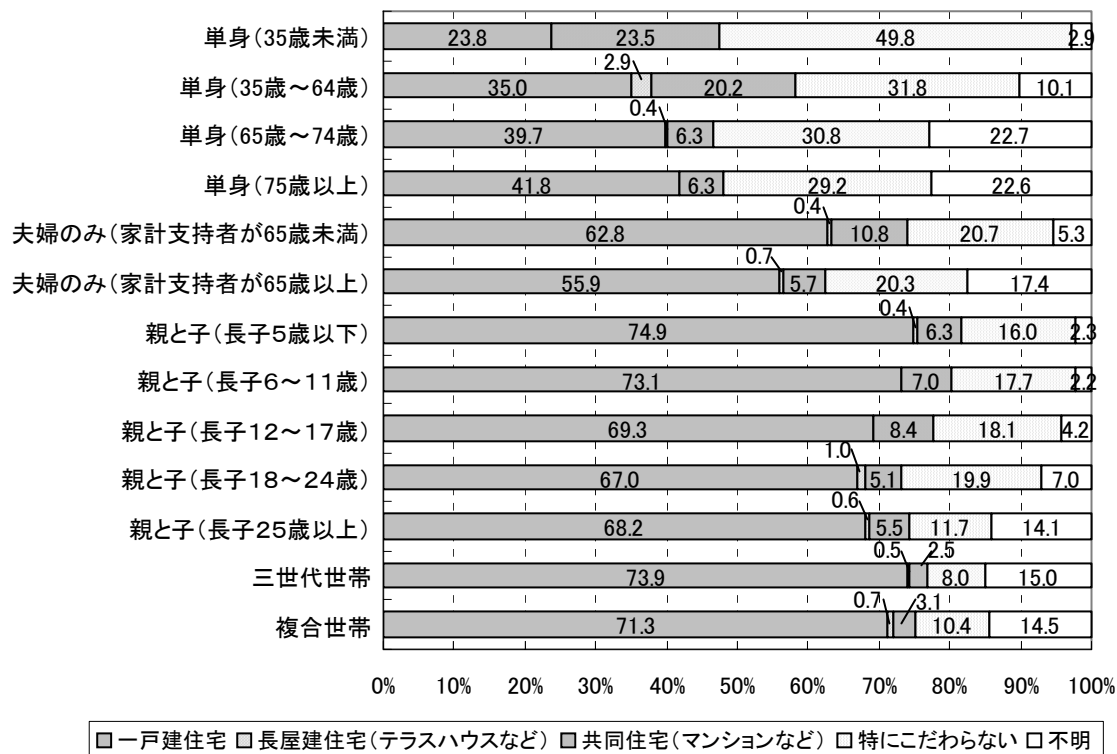
図-58-1 家族型別、住まいに関する意向（所有関係）



住宅の建て方についてみると、「単身（35歳未満）」では「特にこだわらない」が最も多く、次いで「一戸建住宅」となっている。他の家族型では「一戸建住宅」が最も多い。建て方においても、「親と子」、「三世代世帯」、「複合世帯」では約7割と高くなっている。

(図-58-2) (表-54)

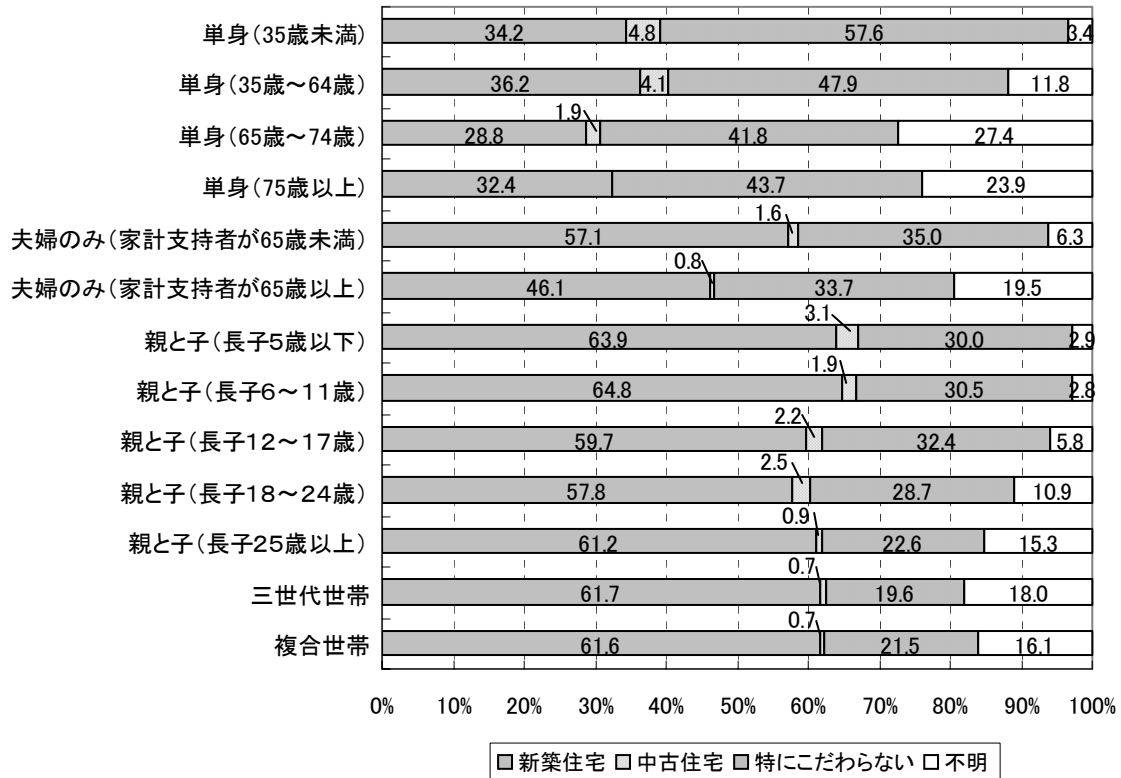
図-58-2 家族型別、住まいに関する意向（建て方）



新築・中古の別についてみると、「単身」世帯では「特にこだわらない」が多いが、その他の家族型では「新築住宅」がよいと考える世帯が最も多い。

(図-58-3) (表-54)

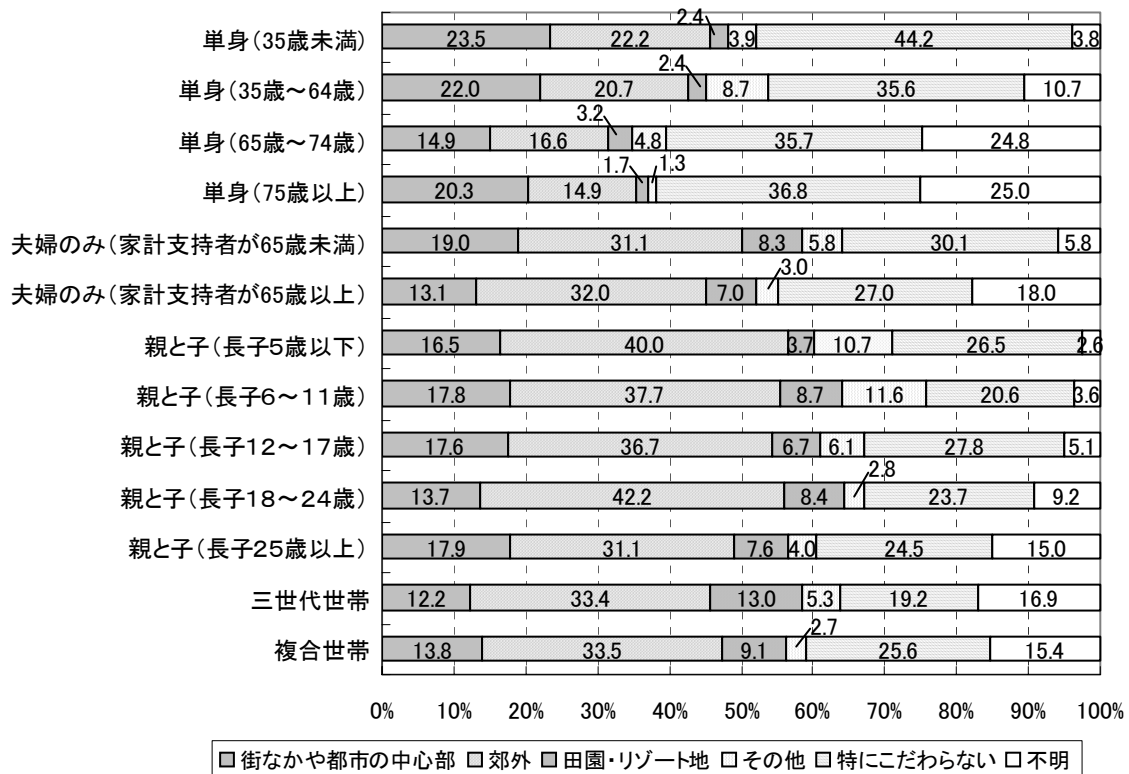
図-58-3 家族型別、住まいに関する意向（新築・中古の区分）



立地についてみると、「単身」世帯では「特にこだわらない」が多い。その他の家族型では、「郊外」がよいと考える世帯が最も多い。「単身」世帯のうち、64歳以下及び75歳以上で「街なかや都市の中心部」が2番目に多くなっている。

(図-58-4) (表-54)

図-58-4 家族型別、住まいに関する意向 (立地条件)



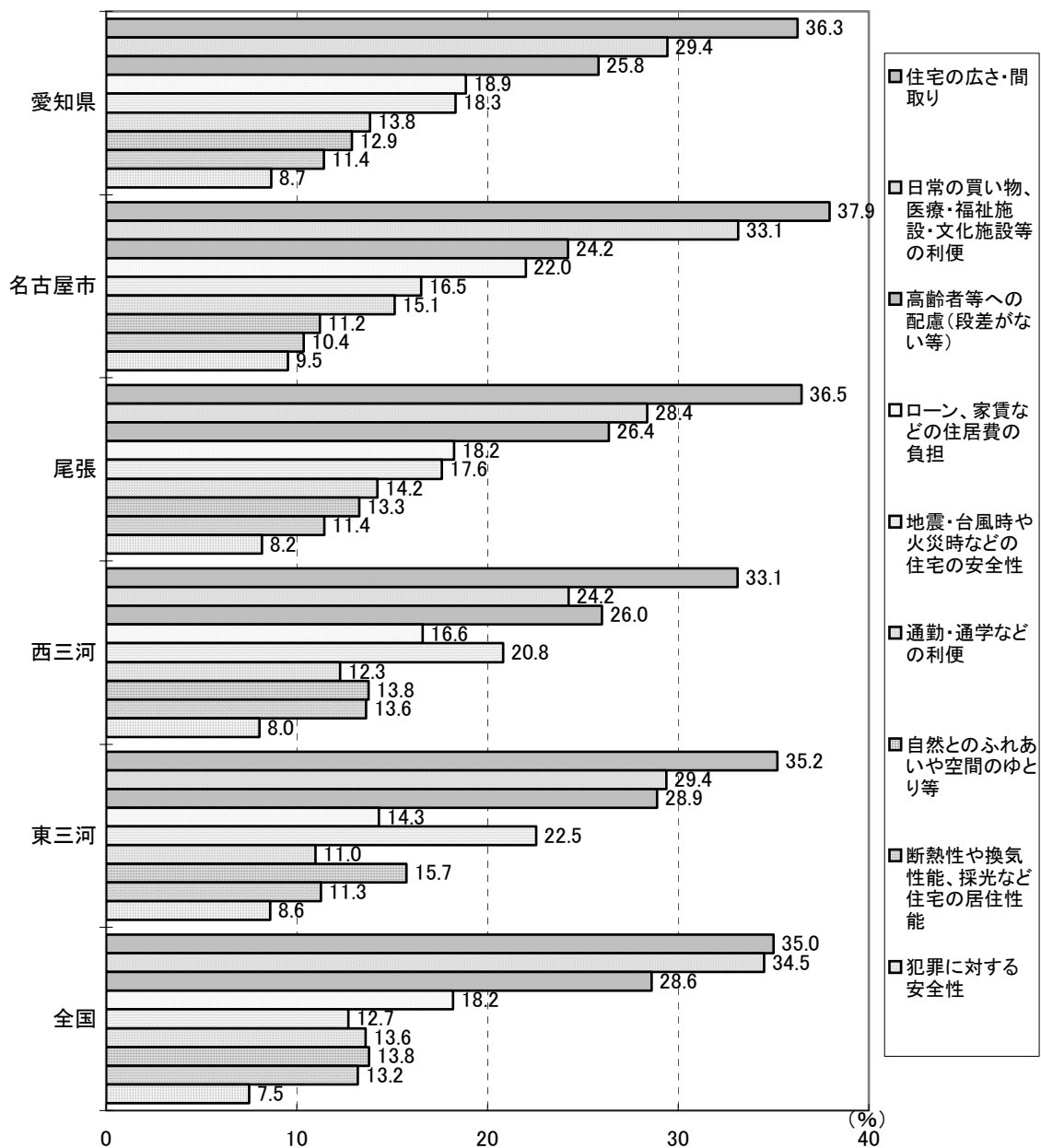
(3) 住まいにおいて重視する点

① 愛知県、地域別

住まいについて重視する点（複数回答）としてあげる世帯が多い項目は、愛知県全体では「住宅の広さ・間取り」、「日常の買い物、医療・福祉施設・文化施設等の利便」、「高齢者等への配慮（段差がない等）」であり、全国と同様となっている。地域別にみると、西三河で「高齢者等への配慮（段差がない等）」が2番目に多くなっているが、上位3つは同様となっている。

(図-59) (表-55)

図-59 地域別、住まいにおいて重視する点

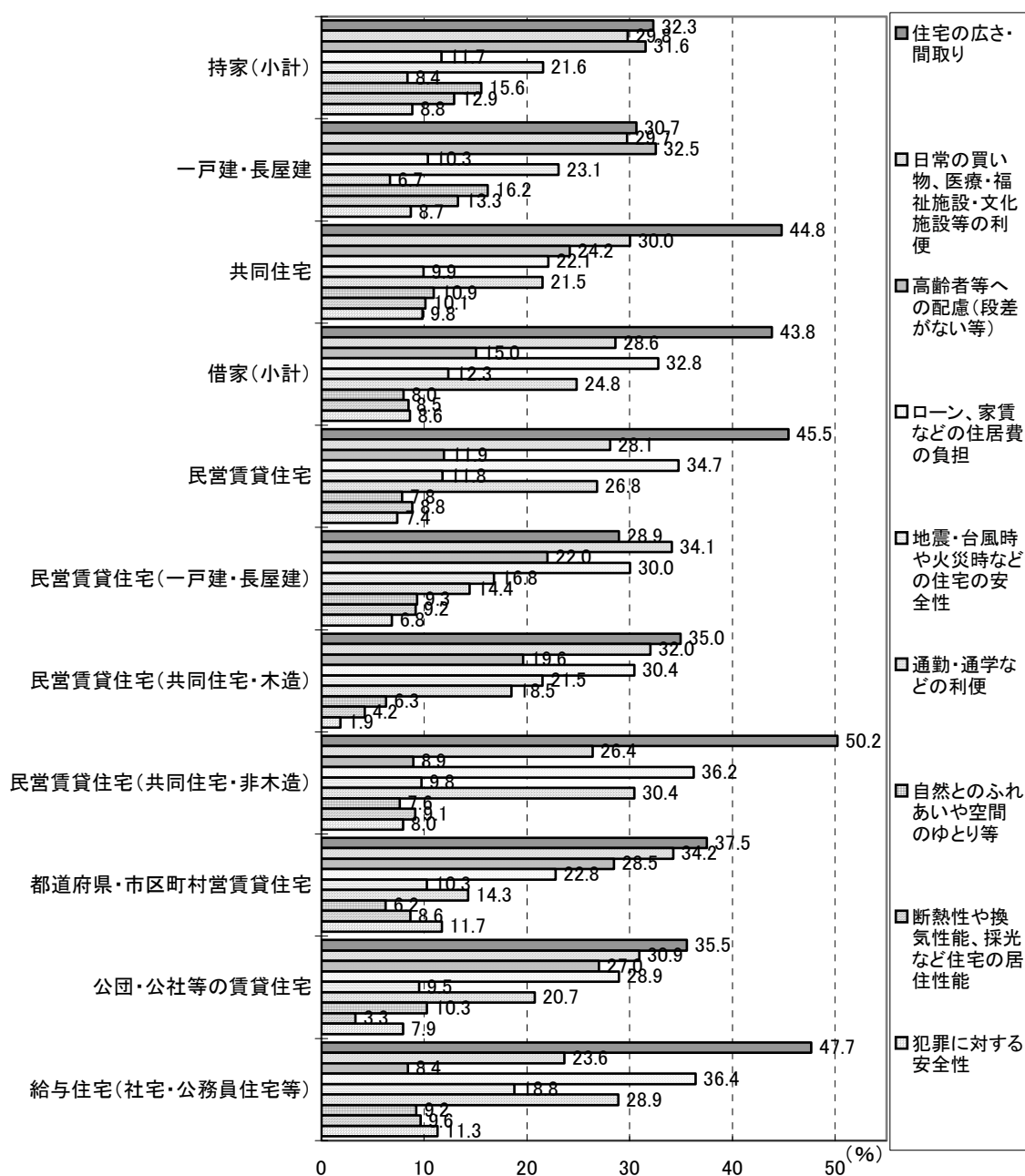


② 住宅タイプ別

住宅タイプ別にみると、「持家」、「借家」全体では「住宅の広さ・間取り」が最も多くなっている。持家の「一戸建・長屋建」では、「高齢者等への配慮（段差がないなど）」が最も多くなっている。借家では、ほとんどの住宅タイプで「住宅の広さ・間取り」が最も多く、次に「ローン、家賃などの住居費の負担」、「日常の買い物、医療・福祉施設・文化施設等の利便」が多くなっている。「民営賃貸住宅（共同住宅・非木造）」、「給与住宅」では、「通勤・通学などの利便」が3番目に多くなっている。

(図-60) (表-56)

図-60 住宅タイプ別、住まいにおいて重視する点

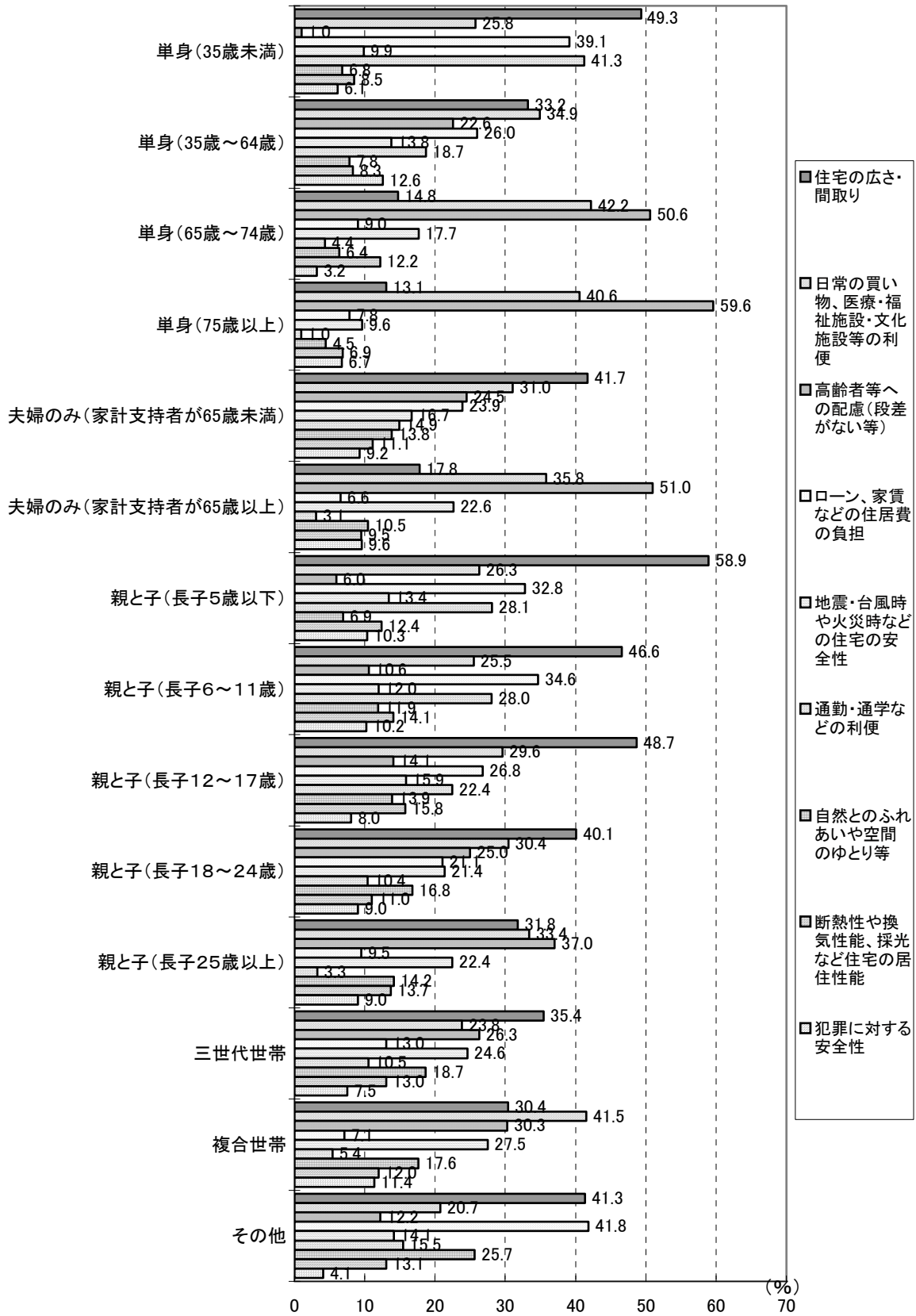


③ 家族型別

家族型別にみると、「住宅の広さ・間取り」を重視する割合が最も高いのは、「単身(35歳未満)」、「夫婦のみ(家計を主に支えるものが65歳未満)」、「親と子(長子24歳以下)」、「三世帯世帯」である。また、「日常の買い物、医療・福祉施設・文化施設等の利便」を重視する割合が最も高いのは、「単身(35歳～64歳)」、「複合世帯」である。「高齢者等への配慮(段差がないなど)」を重視する割合が最も高いのは、「単身(65歳以上)」、「夫婦のみ(家計を主に支えるものが65歳以上)」、「親と子(長子25歳以上)」である。そのほかに、「親と子(長子11歳以下)」では「ローン、家賃などの住居費の負担」が2番目に、「通勤・通学などの利便」が3番目に高くなっている。また「単身(65歳～74歳)」、「夫婦のみ(家計を主に支えるものが65歳以上)」では「地震・台風時や火災時などの住宅の安全性」が3番目に高くなっている。

(図-61) (表-57)

図-61 家族型別、住まいにおいて重視する点



7. 老後の住まい方

(1) 子世帯との現在の住まい方

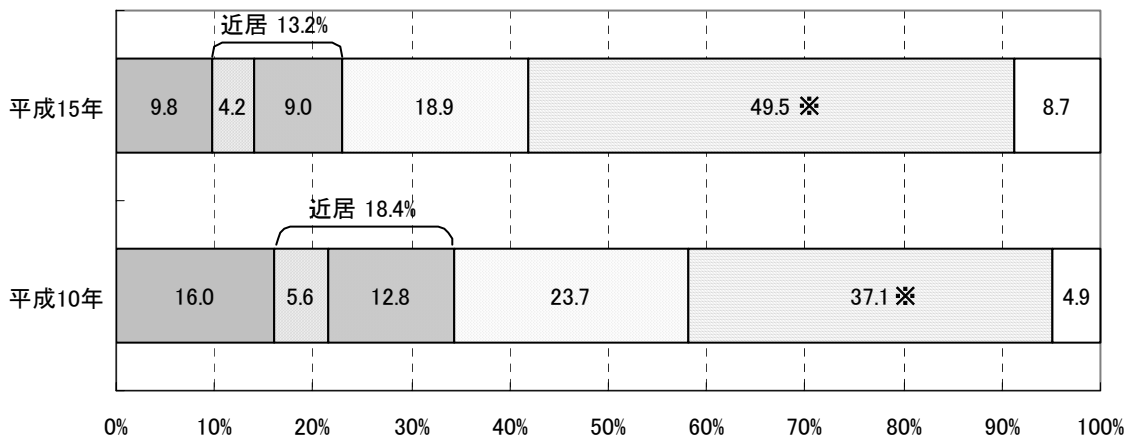
① 愛知県

高齢世帯（家計を主に支えるものが65歳以上の世帯）のうち、別世帯となっている子との現在の住まい方は、「同一市区町村外に住んでいる」が32.1%、次いで「同一市区町村内に住んでいる」が18.9%と多く、「同居している（二世帯住宅を含む）」世帯は9.8%である。子との同居率は、平成10年調査（16.0%）と比較すると6.2ポイント減少しているが、将来の子との住まい方では「子と同居する（二世帯住宅を含む）」という意向が全世帯でも15.2%（世帯主が65歳以上の世帯では22.0%）あることから、今後現状よりも同居が増える可能性がある（「(2) 高齢期の子との住まい方の意向」参照）。

また、「同一敷地内又は同一住棟の別の住宅に住んでいる」、又は「すぐ近く（歩いて10分以内）に住んでいる」と答えた世帯（近居）は13.2%である。平成10年調査では18.4%であり、5.2ポイント減少した。

(図-62) (表-58)

図-62 別世帯の子との住まい方〔世帯主が65歳以上の世帯〕



- 同居している（二世帯住宅を含む）
- 同一敷地内、または同一住棟（長屋建住宅・共同住宅）の別の住宅に住んでいる
- すぐ近く（歩いて10分以内）に住んでいる
- 同一市区町村内に住んでいる
- その他
- 不明

※注
平成15年は「同一市区町村外に住んでいる」(32.1%)「別世帯の子はいない」(17.4%)。平成10年は「子どもとは関係なく住んでいる」(25.3%)「その他」(11.8%)。

② 地域別

別世帯となっている子と「同居している（二世帯住宅を含む）」割合は、全世帯で6.1%となっている。地域別にみると、東三河で同居率が高く（10.5%）、名古屋市で低くなっている（3.9%）。高齢世帯についても同様の傾向がみられる。

(図-63-1～図-63-2) (表-58)

図-63-1 地域別、別世帯の子との住まい方〔全世帯〕

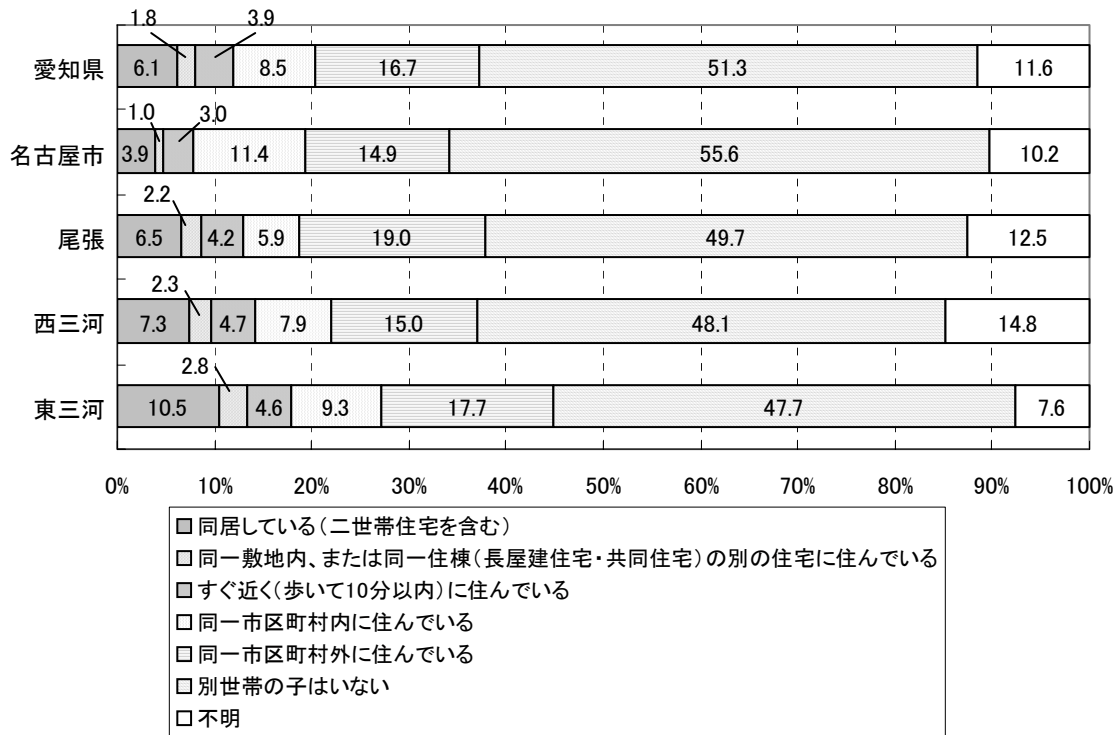
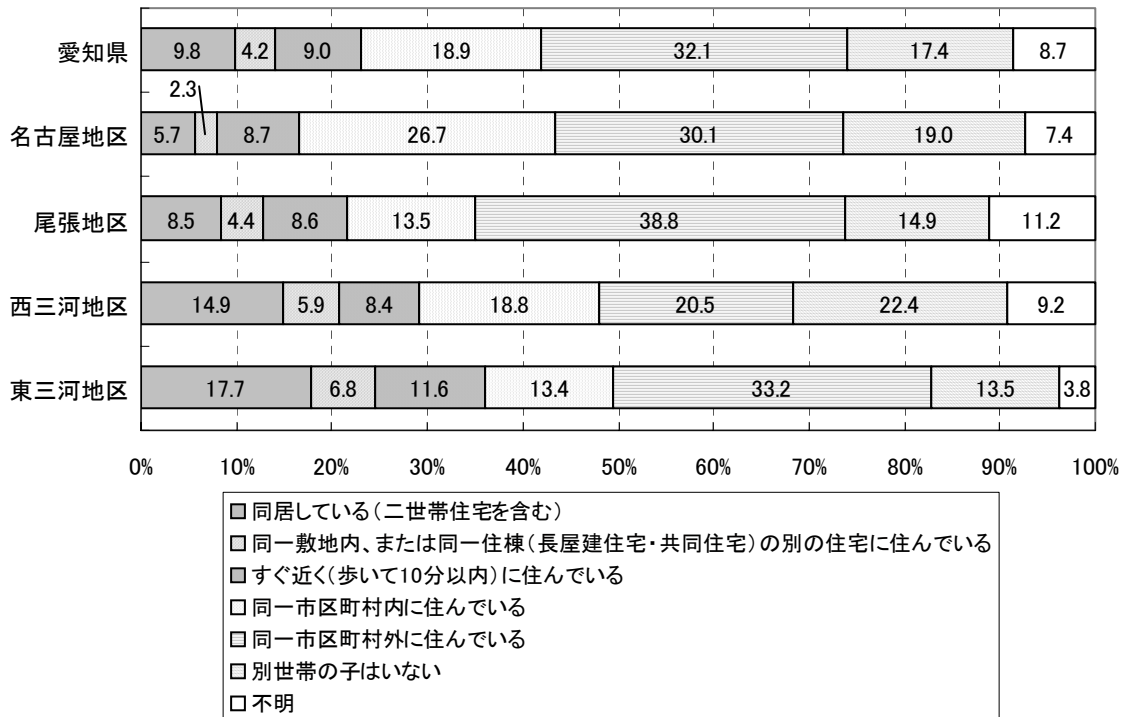


図-63-2 地域別、別世帯の子との住まい方〔世帯主が65歳以上の世帯〕

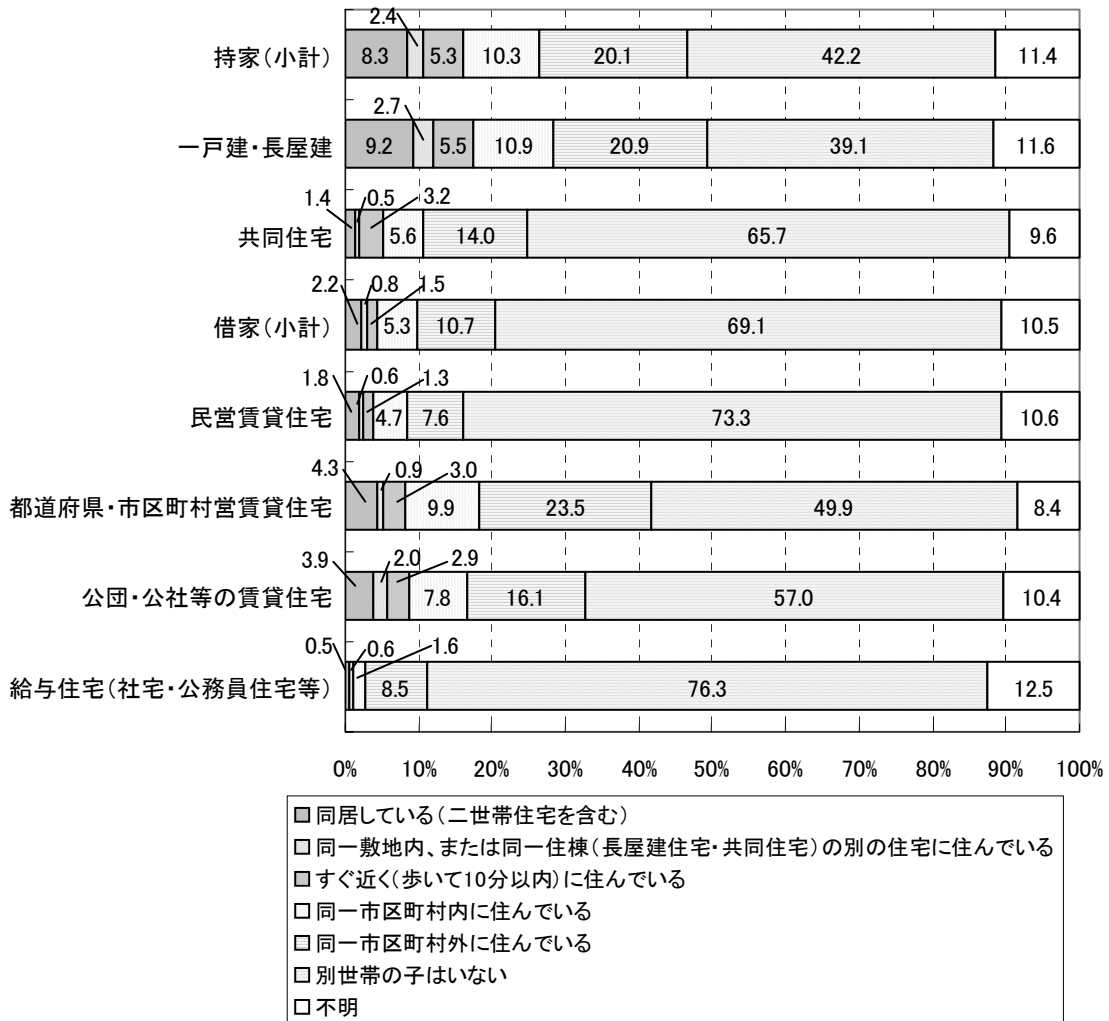


③ 住宅タイプ別

住居タイプ別にみると、「持家（一戸建・長屋建）」で最も同居率が高い。また、借家では「都道府県・市区町村営賃貸住宅」、「公団・公社等の賃貸住宅」での同居率が高く（それぞれ、4.3%、3.9%）、「持家（共同住宅）」（1.4%）よりも高くなっている。

（図-64）（表-59）

図-64 住宅タイプ別、別世帯の子との住まい方〔全世帯〕



(2) 高齢期の子との住まい方の意向

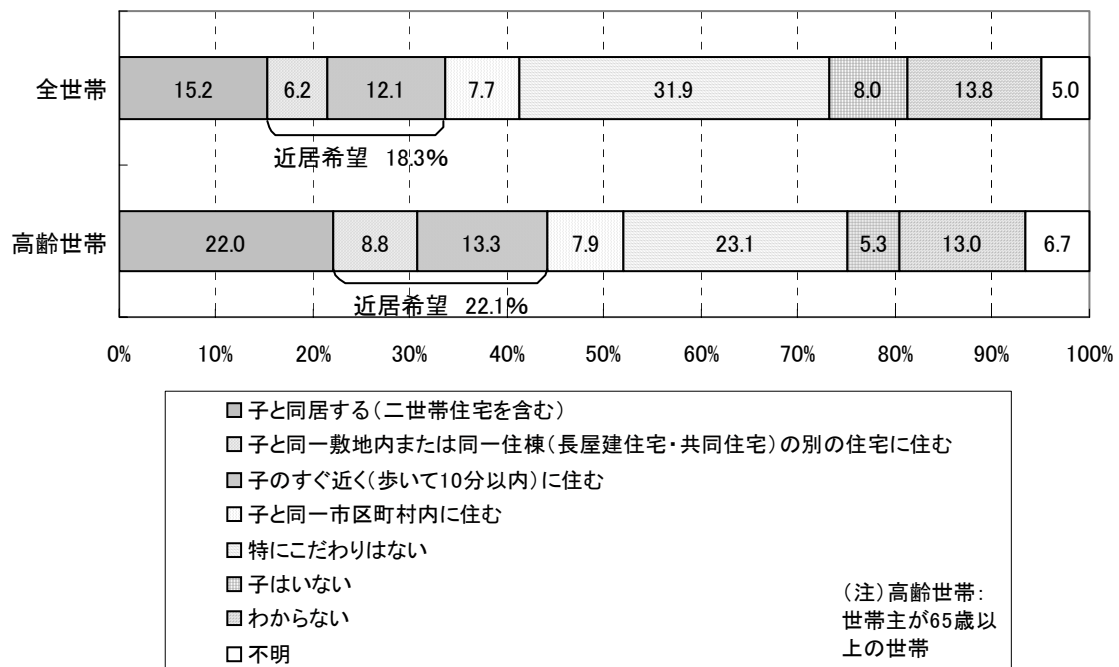
① 愛知県

高齢期の子どもの住まい方については、「特にこだわりはない」世帯が31.9%と最も多く、次いで、「子と同居する(二世帯住宅を含む)」が15.2%、「わからない」が13.8%、「子のすぐ近く(歩いて10分以内)に住む」が12.1%の順となっている。「子と同一敷地内又は同一住棟(長屋建住宅・共同住宅)の別の住宅に住む」は6.2%で、「子のすぐ近くに住む」と合わせた近居希望は18.3%となっている。

平成10年調査では、同居希望は17.5%、近居希望は19.1%であることから、それぞれ2.3ポイントの減少、0.8ポイントの減少となっている。

(図-65) (表-60)

図-65 高齢期における子との住まい方に関する意向



② 地域別

地域別にみると、「子と同居する」や「子と同一敷地内又は同一住棟の別の住宅に住む」を希望する世帯の割合は、西三河、東三河で高く、名古屋市で低い傾向にある。

また、近居希望の割合をみると、尾張、西三河、東三河では約2割あるのに対し、名古屋市では15%程度とやや低くなっている。

(図-66-1～図-66-2) (表-60)

図-66-1 地域別、高齢期における子との住まい方に関する意向〔全世帯〕

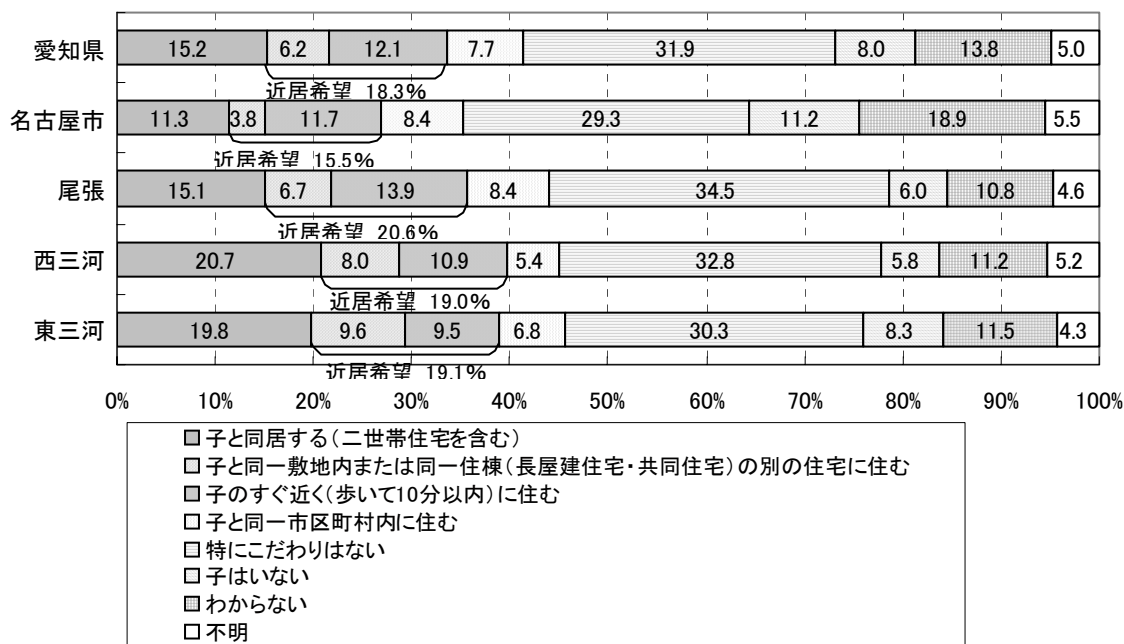
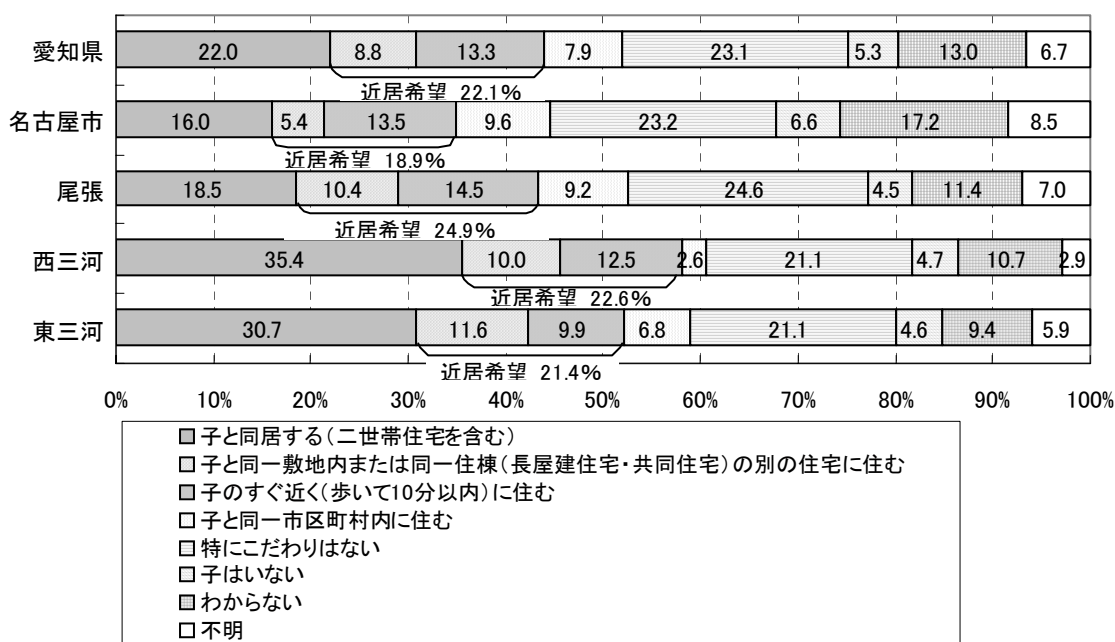


図-66-2 地域別、高齢期における子との住まい方に関する意向〔世帯主が65歳以上の世帯〕

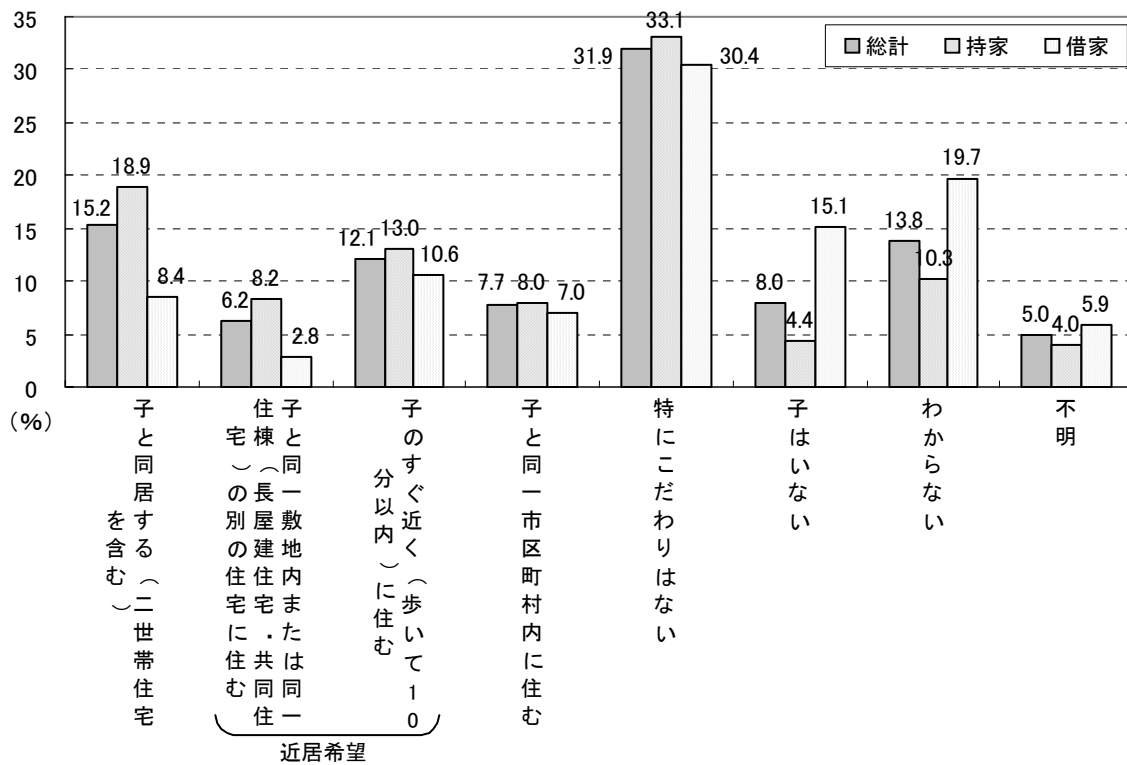


③ 住宅タイプ別

持・借別にみると、「子と同居」や子との近居を希望する世帯の割合は持家で高くなっているが、全体としては「特にこだわりはない」世帯が多くなっている。また、借家世帯では、「わからない」とする回答も多く、高齢期の住まい方についてまだ明確なイメージを持っていない世帯が多いことがうかがえる。

(図-67) (表-61)

図-67 持家・借家別、高齢期における子との住まい方に関する意向

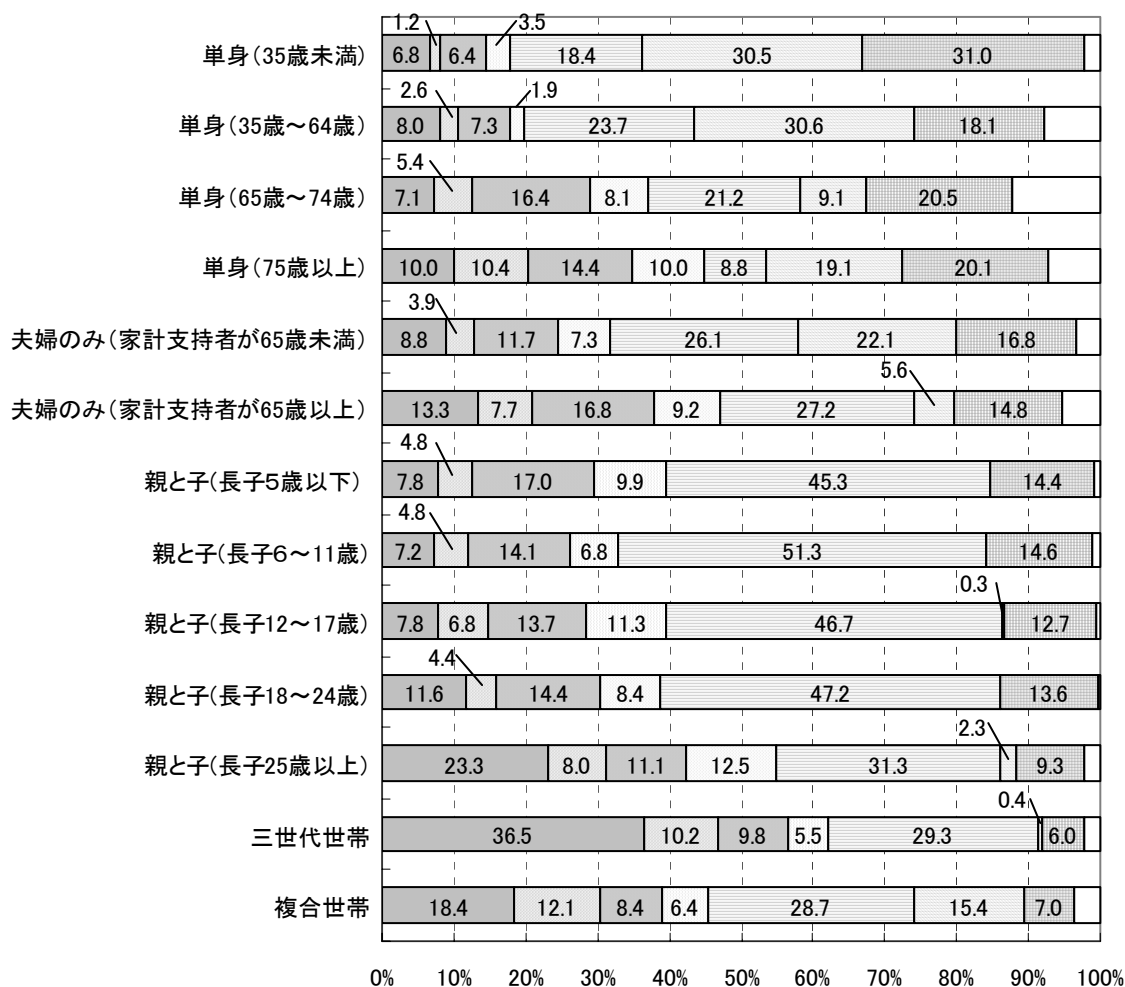


④ 家族型別

家族型別にみると、「子と同居する」、「子と同一敷地内又は同一住棟の別の住宅に住む」を希望する割合は、「三世帯世帯」、「親と子（長子 25 歳以上）」、「複合世帯」の世帯で高くなっている。これに対して、子どもの年齢が低い「親と子」（長子 24 歳以下）の世帯では、「特にこだわりはない」という考えが多く、いずれも 4 割以上を占めている。また、近居を希望する割合が高いのは、「単身（75 歳以上）」、「夫婦のみ（家計を主に支えるのが 65 歳以上）」で、それぞれ、24.8%、24.5%となっている。

(図-68) (表-62)

図-68 家族型別、老後の住まい方



- 子と同居する(二世帯住宅を含む)
- 子と同一敷地内または同一住棟(長屋建住宅・共同住宅)の別の住宅に住む
- 子のすぐ近く(歩いて10分以内)に住む
- 子と同一市区町村内に住む
- 特にこだわりはない
- 子はいない
- わからない
- 不明

(3) 高齢期の居住形態等の意向

① 愛知県、地域別

高齢期に備えた住み替え・改善の意向について愛知県全体をみると、「特に考えていない」という世帯の割合が69.7%と最も高い。次いで、「住宅の建て替えやリフォーム等して住み続ける」が16.3%、「住宅を購入する・借りる、施設に入る等して住み替える」が6.7%の順になっている。

地域別にみても同様の傾向がみられるが、尾張、西三河で「住宅の建て替えやリフォーム等して住み続ける」が約20%みられ、現在の住宅に住み続ける意向が強いことがうかがえる。

また、住み替え後の居住形態としては、「持家（一戸建）」、「サービス付きの高齢者向け住宅」が多くなっている。

(図-69-1～図-69-2) (表-63)

図-69-1 高齢期に備えた住み替え・改善の意向

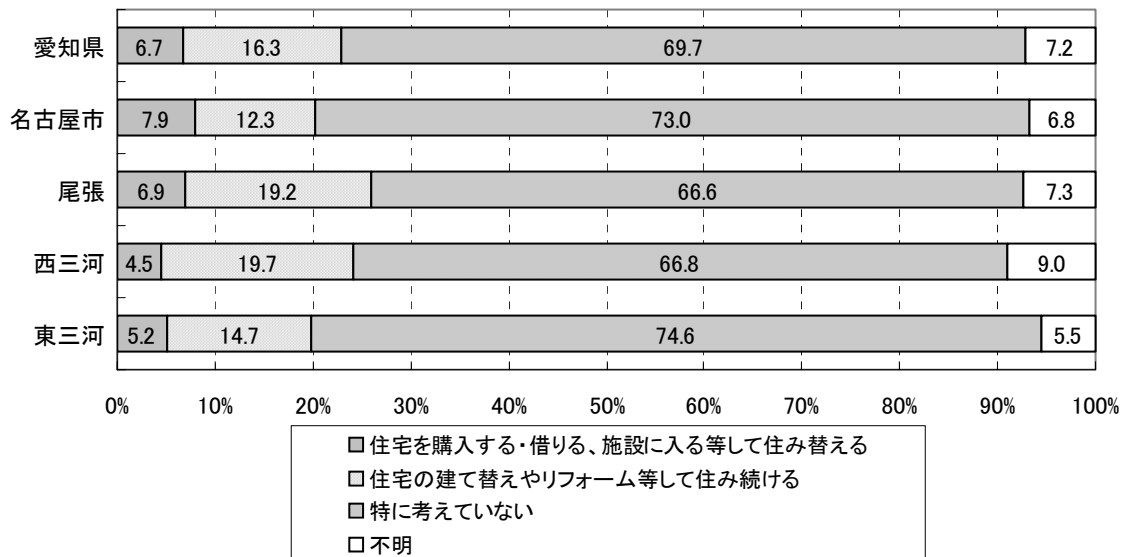
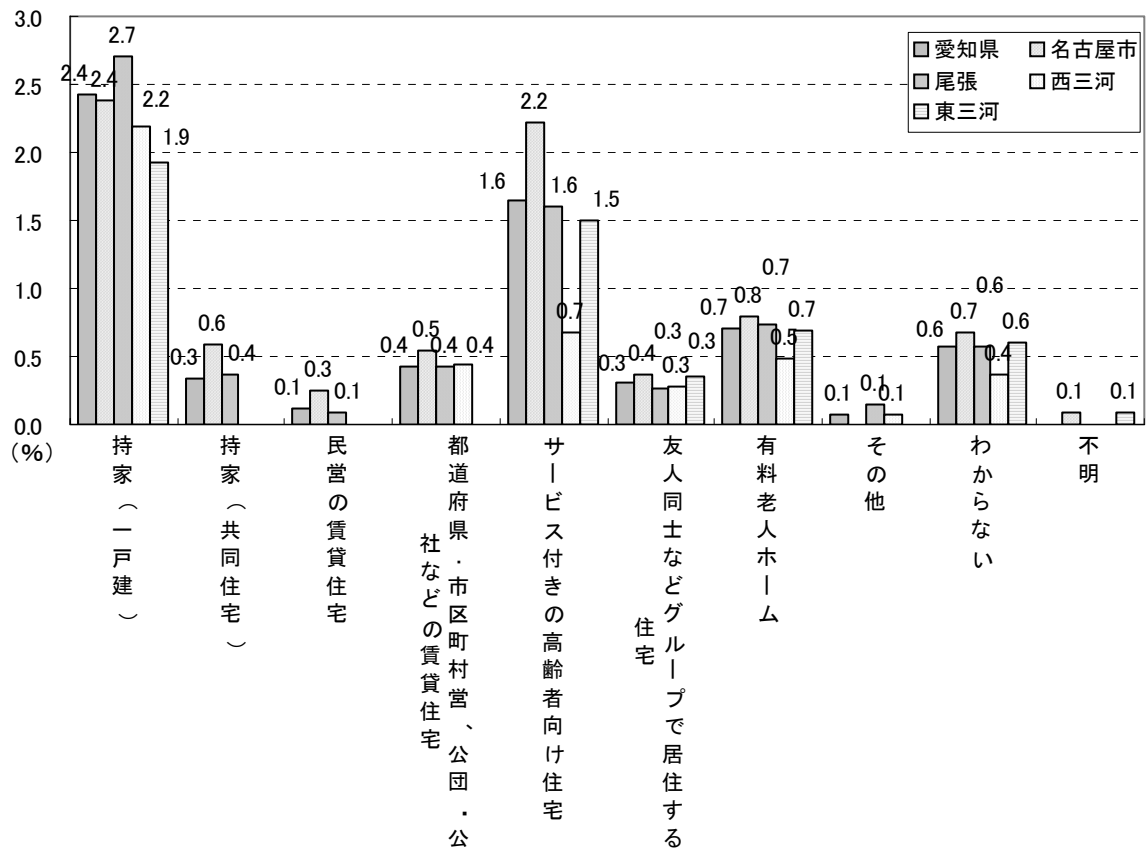


図-69-2 高齢期に備えた住み替え後の望ましい居住形態



② 住宅タイプ別

持・借別にみると、持家よりも借家の方で、「住宅を購入する・借りる、施設に入る等して住み替える」とする割合が高くなっている。また、持家の中では、「一戸建・長屋建」で「住宅の建て替えやリフォーム等して住み続ける」とする意向が強い。

また、住み替え後の居住形態としては、「持家（一戸建）」、「サービス付の高齢者向け住宅」が多くなっているが、借家でその傾向が強い。また、借家では「都道府県・市区町村営、公団・公社などの賃貸住宅」の割合も高くなっている。

(図-70-1～図-70-2) (表-64)

図-70-1 住宅タイプ別、高齢期に備えた住み替え・改善の意向

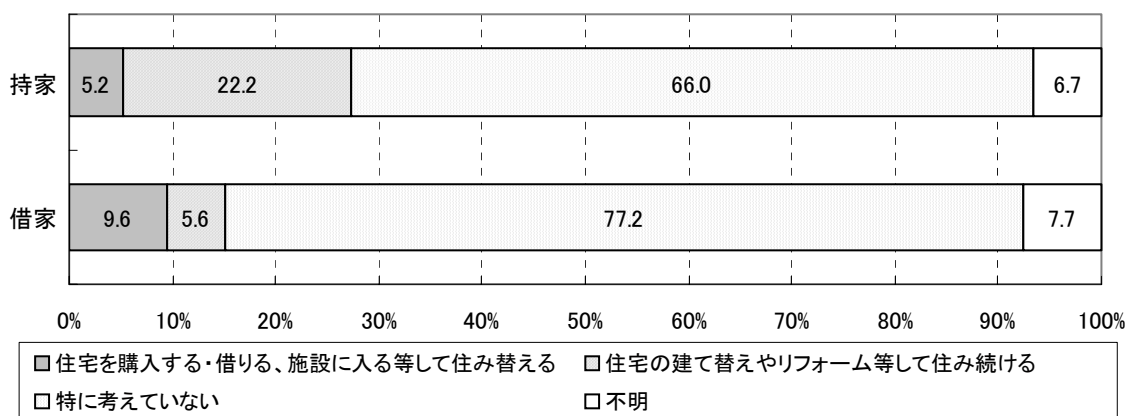
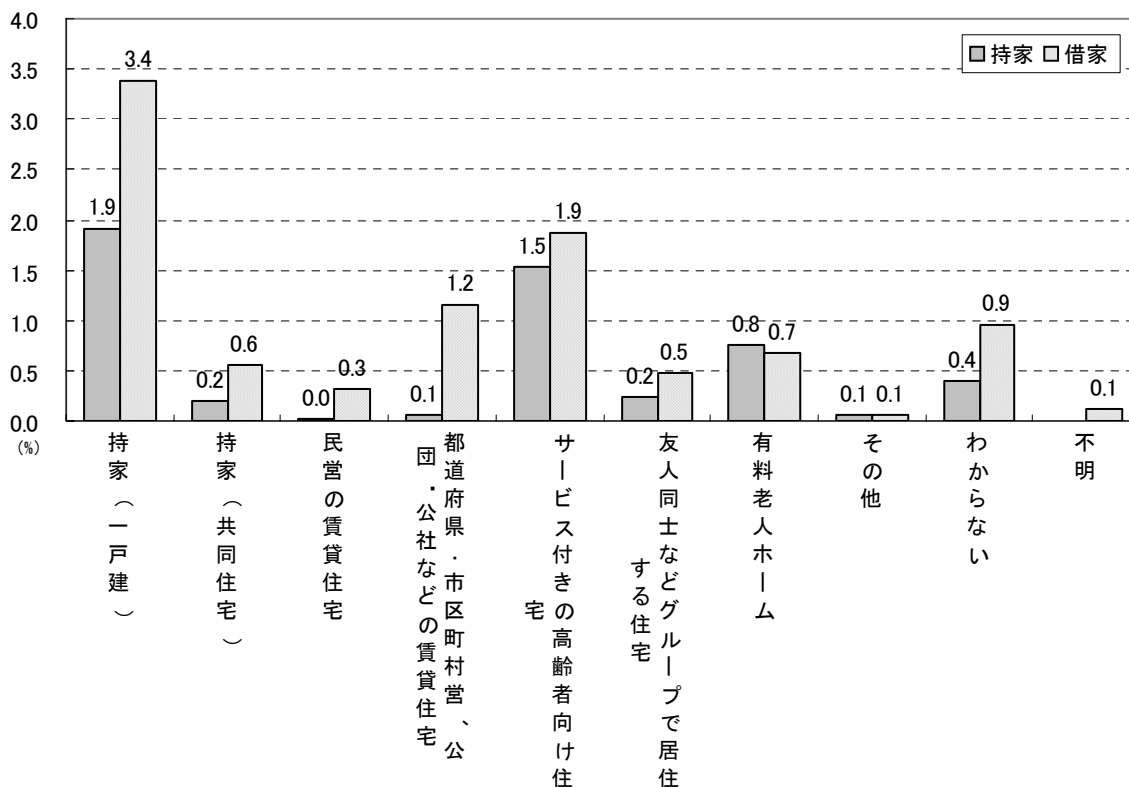


図-70-2 住宅タイプ別、高齢期に備えた住み替え後の望ましい居住形態



③ 家族型別

家族型別にみると、どの家族型においても「特に考えていない」が最も多い。また、「住宅の建て替えやリフォーム等して住み続ける」が、「親と子」の長子18歳以上、「三世帯世帯」「複合世帯」で20%を超え、2番目に多くなっている。「住宅を購入する・借りる、施設に入る等して住み替える」は「単身（65歳～74歳）」、「夫婦のみ（家計を主に支えるものが65歳未満）」で2番目に多くなっている。

住み替え後の居住形態としては、「単身」世帯の74歳以下で「サービス付の高齢者住宅」が最も多く、「単身（75歳以上）」では「有料老人ホーム」が最も多い。また、「複合世帯」、「夫婦のみ（家計を主に支えるものが65歳未満）」、「親と子（長子5歳以下）」では「持家（一戸建）」が最も多くなっている。

(図-71-1～図-71-2) (表-65)

図-71-1 家族型別、高齢期に備えた住み替え・改善意向

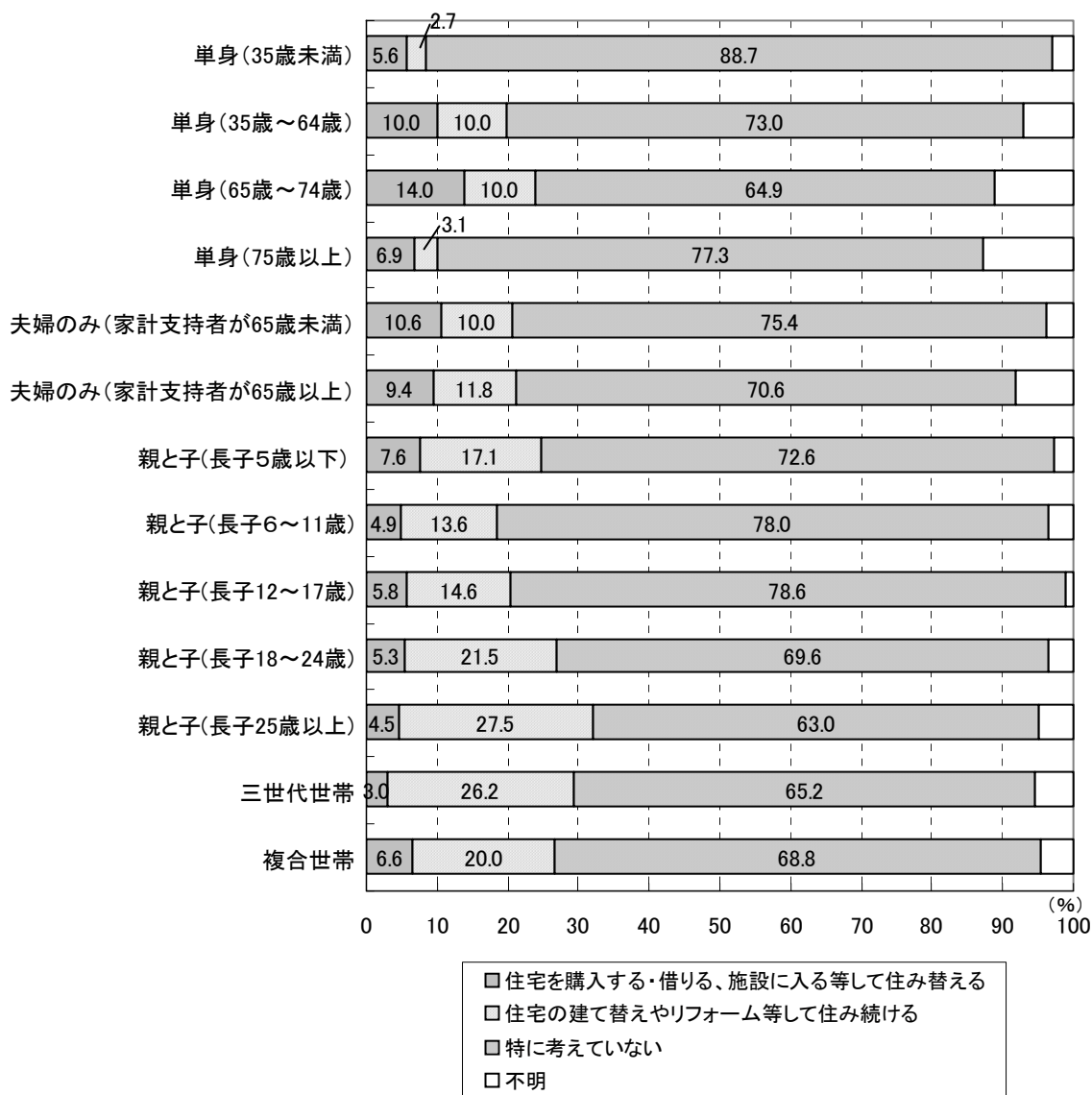
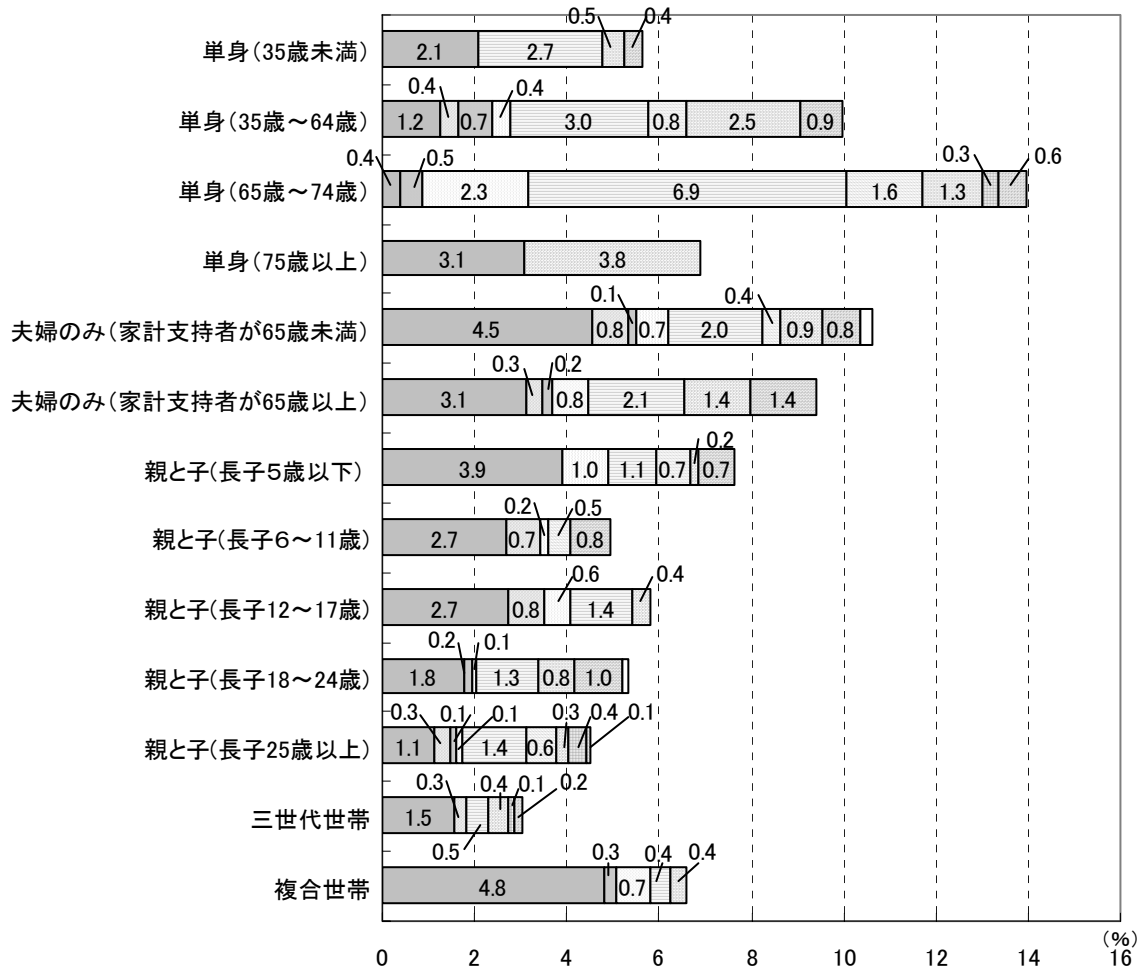


図-71-2 家族型別、高齢期に備えた住み替え後の望ましい居住形態



- 持家(一戸建)
- 持家(共同住宅)
- 民営の賃貸住宅
- 都道府県・市区町村営、公団・公社などの賃貸住宅
- サービス付きの高齢者向け住宅
- 友人同士などグループで居住する住宅
- 有料老人ホーム
- その他
- わからない
- 不明

8. 子育てにおいて重要な要素

子育てにおいて住宅や住環境で重視する要素で最も多いのは「安全性や遮音性など住宅の居住性能」が15.1%、次いで「子どもの遊び場、公園等」が14.4%、「まわりの道路の歩行時の安全性」が13.6%である。

これを「親と子」の世帯についてみると、長子11歳以下の世帯では、「まわりの道路の歩行時の安全性」が、長子12歳～24歳の世帯では「子どもの遊び場、公園等」が、長子25歳以上の世帯では「幼稚園・小学校等の利便」が最も多くなっている。また、「親と子（長子18～24歳）」、「三世帯世帯」では、「安全性や遮音性など住宅の居住性能」が多くなっている。

(図-72-1～図-72-2) (表-66)

図-72-1 子育てにおいて重視する要素

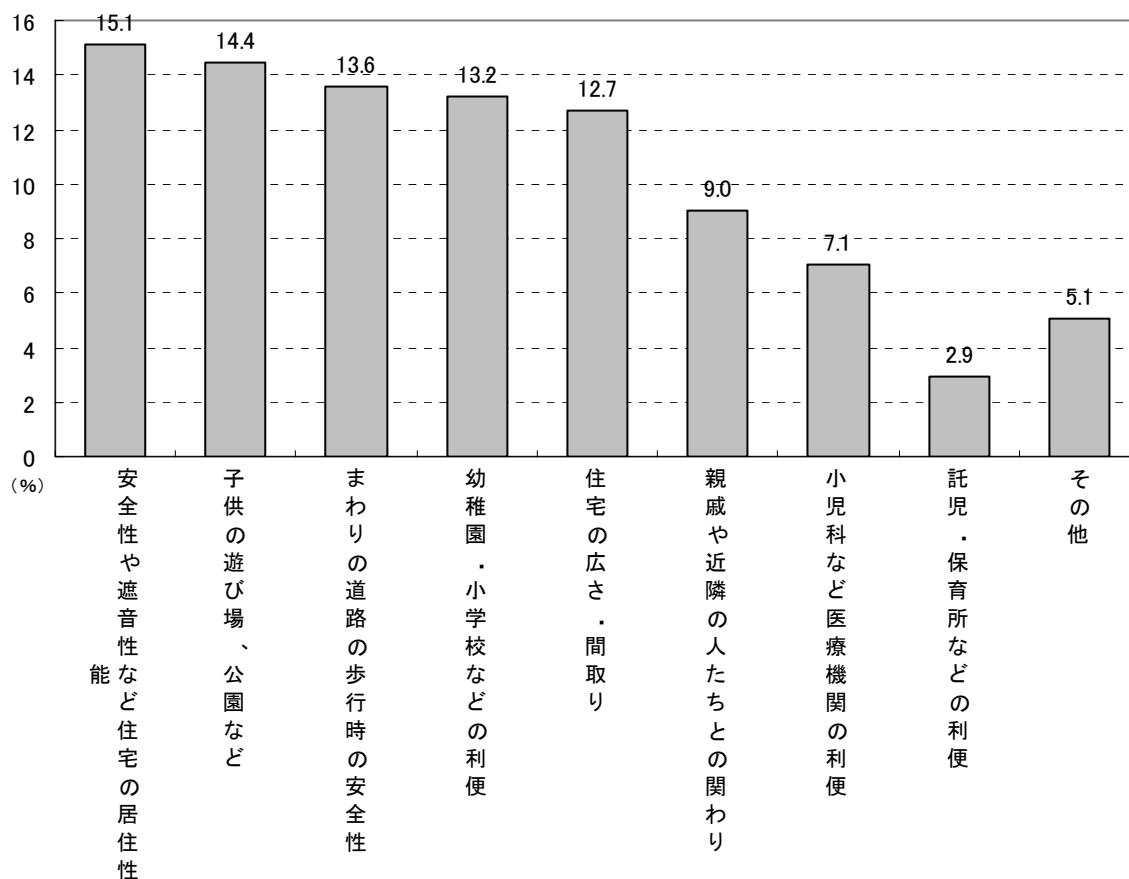
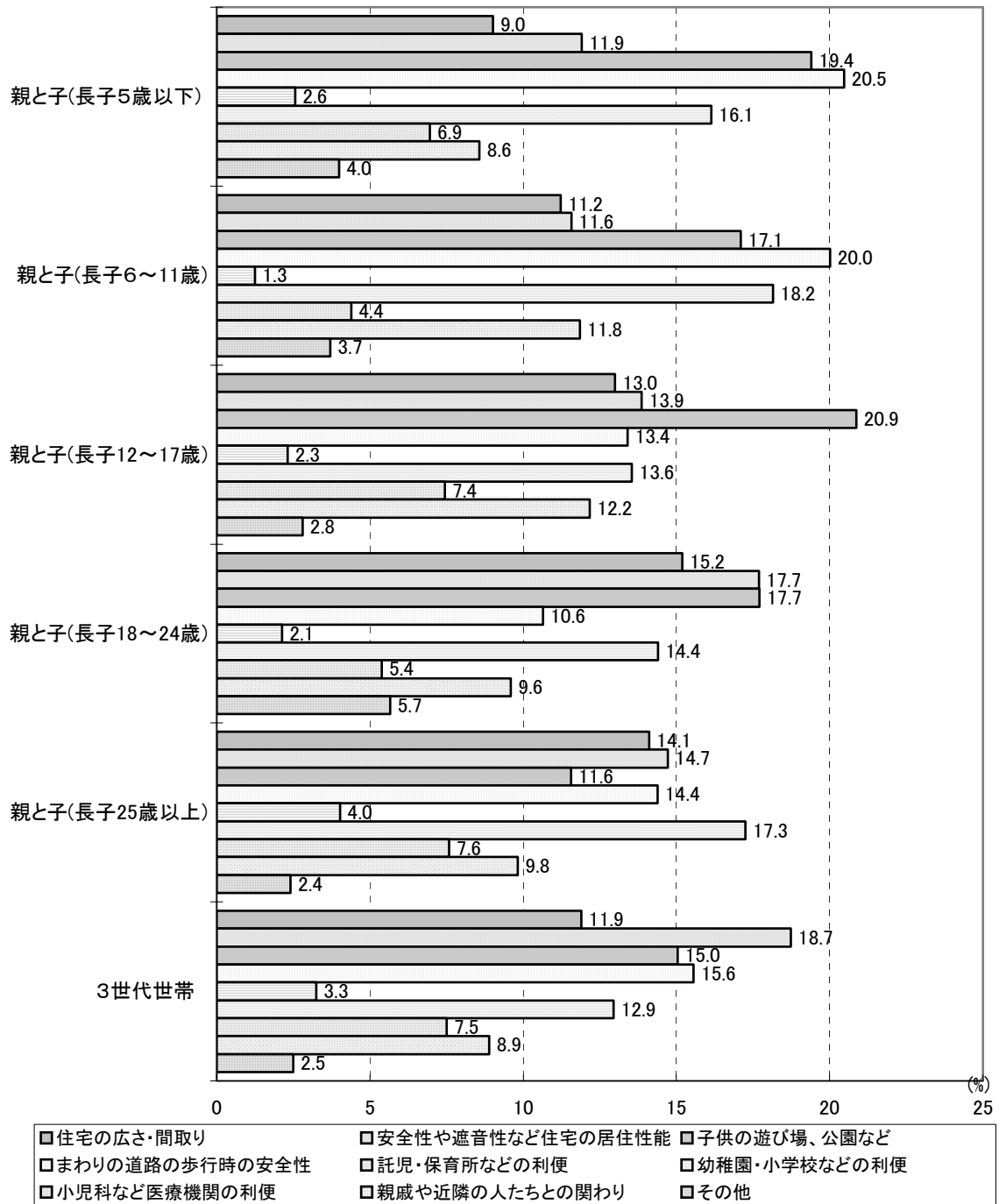


図-72-2 子育てにおいて重視する要素
〔親と子世帯、三世帯世帯〕



9. 住宅の相続

(1) 相続した住宅の有無とその活用方法

① 愛知県

相続した住宅が「ある」世帯（「相続した家に住んでいる」「相続した家に住んでいないが、別荘等として活用している」「相続した家はあるが、住んでいない」「相続した家を貸している」の合計）は18.3%、相続した住宅が「ない」世帯は72.4%となっている。

相続した住宅の活用方法としては、「相続した家に住んでいる」が15.6%、「相続した家に住んでいないが、別荘等として活用している」が0.2%、「相続した家はあるが、住んでいない」が2.2%、「相続した家を貸している」が0.3%となっている。

地域別にみると、相続した住宅が「ある」世帯は東三河で最も多く、24.6%となっている。最も少ないのは名古屋市で14.2%である。

(図-73-1～図-73-2) (表-67)

図-73-1 相続した住宅の有無とその活用方法

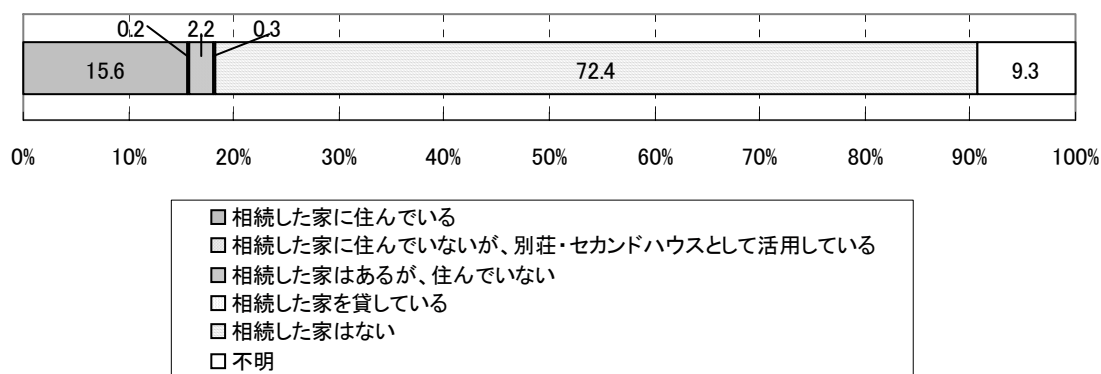
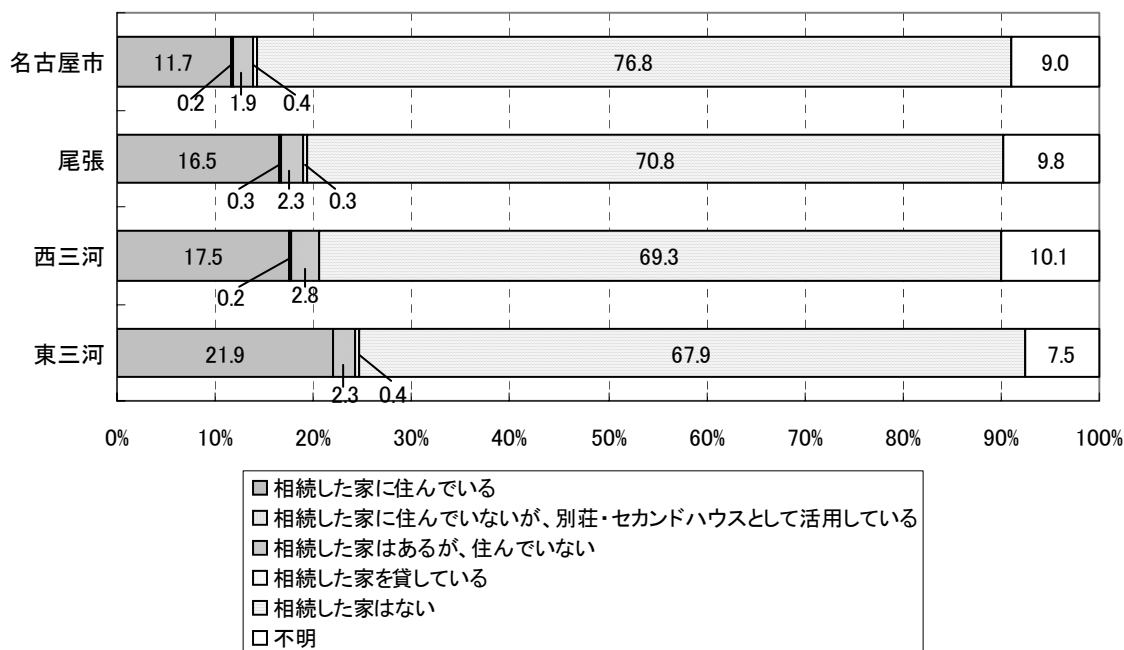


図-73-2 地域別、相続した住宅の有無とその活用方法



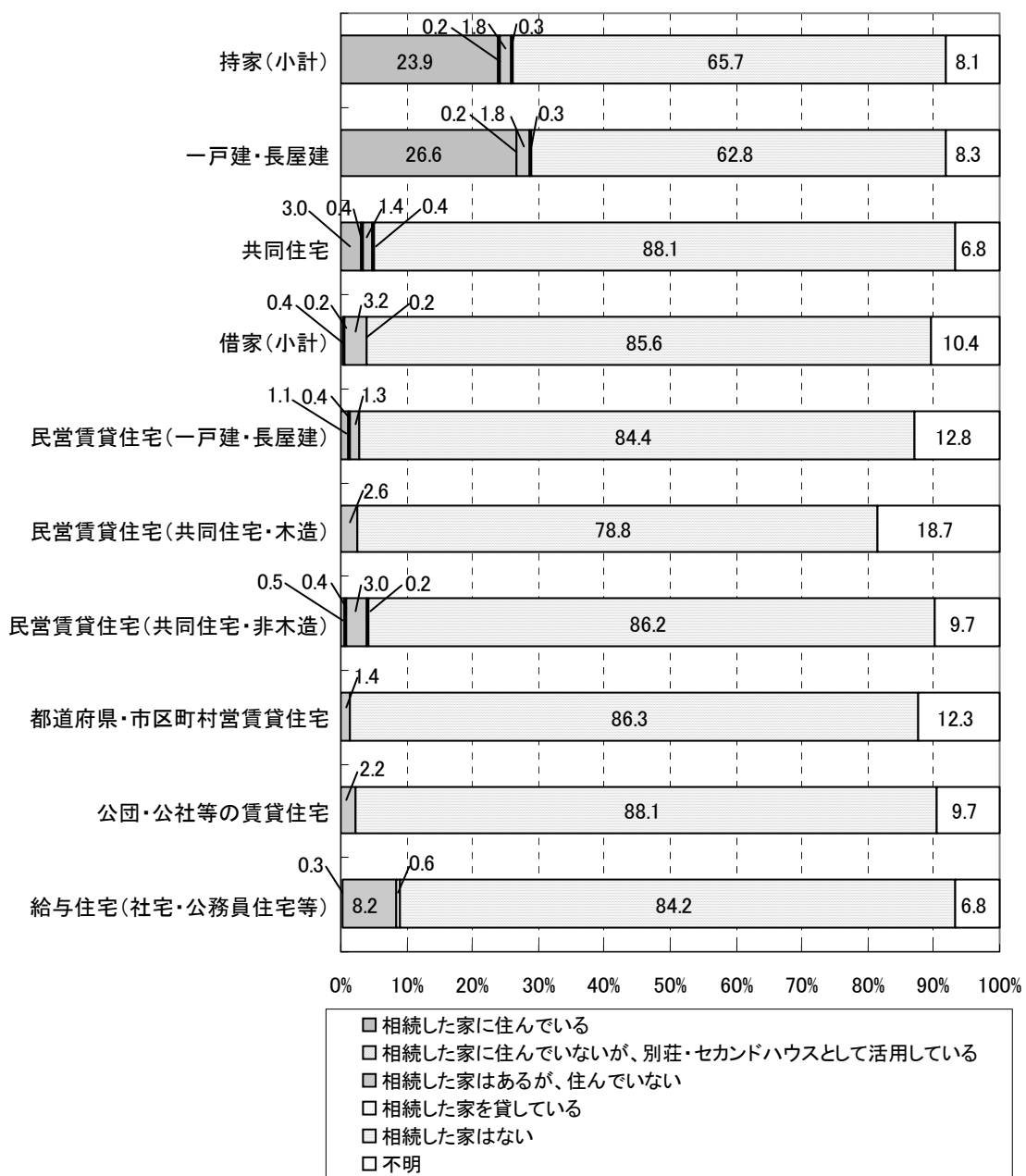
② 住宅タイプ別

住宅タイプ別にみると、持家では、「相続した家に住んでいる」とする世帯が23.9%となっている。その内容をみると、「一戸建・長屋建」では「相続した家に住んでいる」が26.6%であるのに対し、「共同住宅」では3.0%と極端に低く、「相続した家はない」が88.1%と大多数を占めている。

借家では「相続した家はない」とする世帯が85.6%と多く、「公団・公社等の賃貸住宅」で88.1%、「都道府県・市区町村賃貸住宅」で86.3%、「民営賃貸住宅（共同住宅・非木造）」で86.2%となっている。

(図-74) (表-68)

図-74 住宅タイプ別、相続した住宅の有無とその活用方法



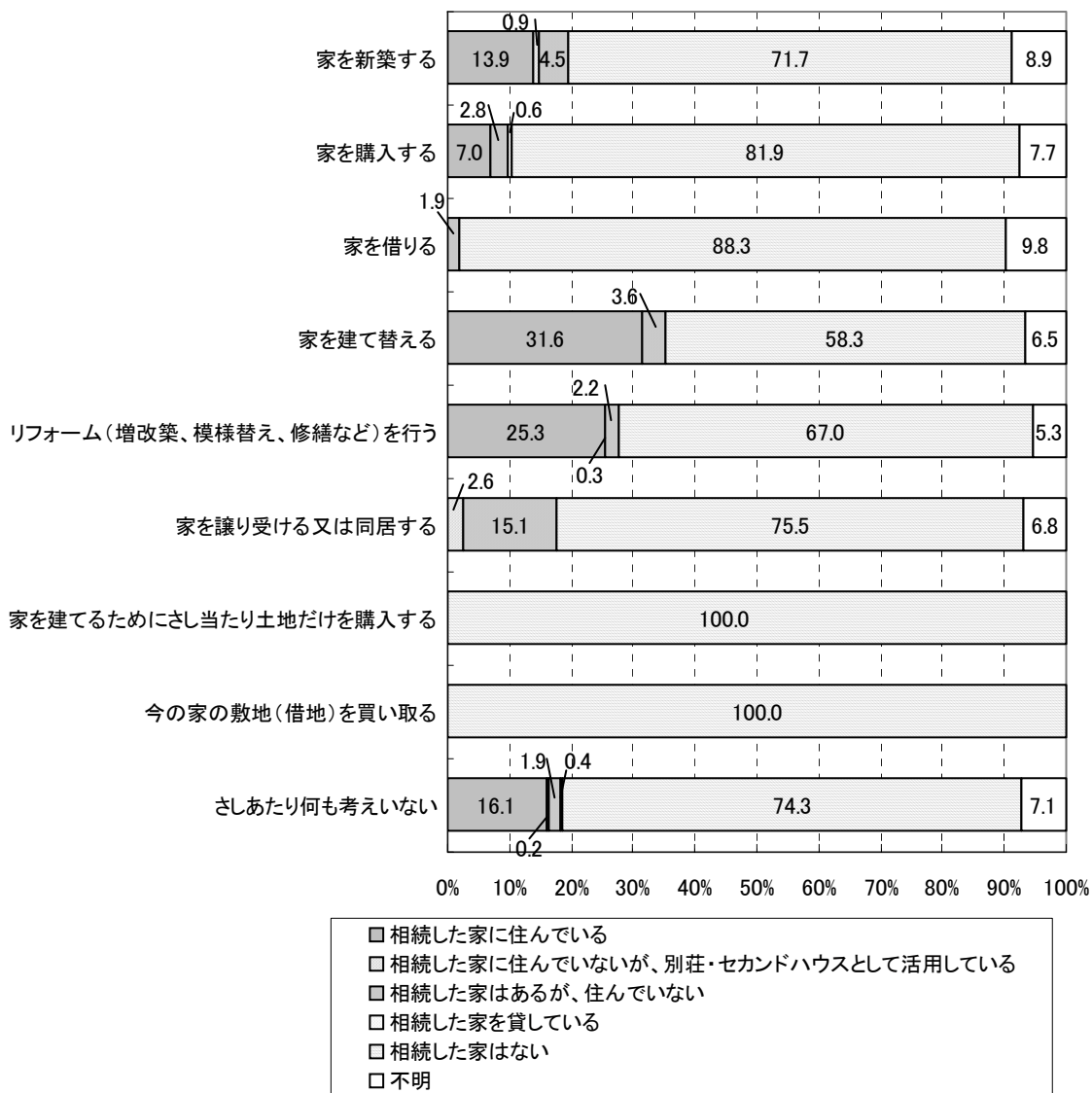
③ 住み替え・改善の意向の内容別

「家を建て替える」、「リフォーム（増改築、模様替え、修繕等）を行う」意向のある世帯では、「相続した家に住んでいる」割合は、それぞれ 31.6%、25.3%となっている。また、「さしあたり何も考えていない」、「家を新築する」意向のある世帯では、「相続した家に住んでいる」割合は、それぞれ 16.1%、13.9%となっている。

これに対して、「家を建てるためにさしあたり土地だけを購入する」、「今の家の敷地（借地）を買い取る」意向の世帯では、「相続した家はない」という割合が 100%となっている。「家を借りる」意向の世帯では「相続した家はない」が 88.3%、「相続した家に住んでいる」が 0%である。

(図-75) (表-69)

図-75 住み替え・改善の意向の内容別、相続した住宅の有無とその活用方法



(2) 相続する可能性のある住宅の有無とその活用方法

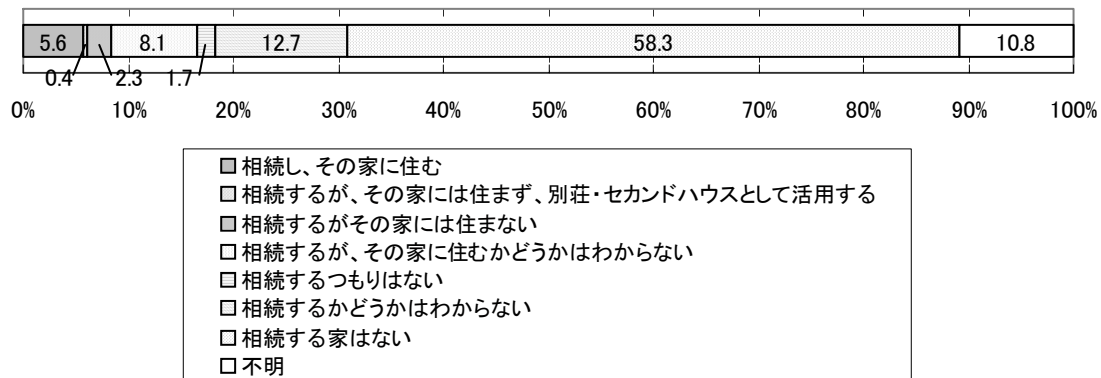
① 愛知県

現在、持家に居住していない世帯のうち、将来相続する可能性のある住宅がある世帯（「相続し、その家に住む」「相続するが、その家に住まず別荘等として活用する」「相続するが、その家には住まない」「相続するが、その家に住むかどうかはわからない」「相続するつもりはない」「相続するかどうかはわからない」の合計）は、30.8%である。平成10年調査では36.6%であったことから、5.8ポイント減少した。

相続する可能性のある住宅の活用方法については、「相続するかどうかはわからない」が最も多く12.7%、次いで「相続するが、その家に住むかどうかはわからない」が8.1%、「相続し、その家に住む」が5.6%となっている。

(図-76) (表-70)

図-76 相続する可能性のある住宅の有無とその活用方法
〔持家に居住していない世帯〕 ※ (住宅の種類「その他・不明」を除く)



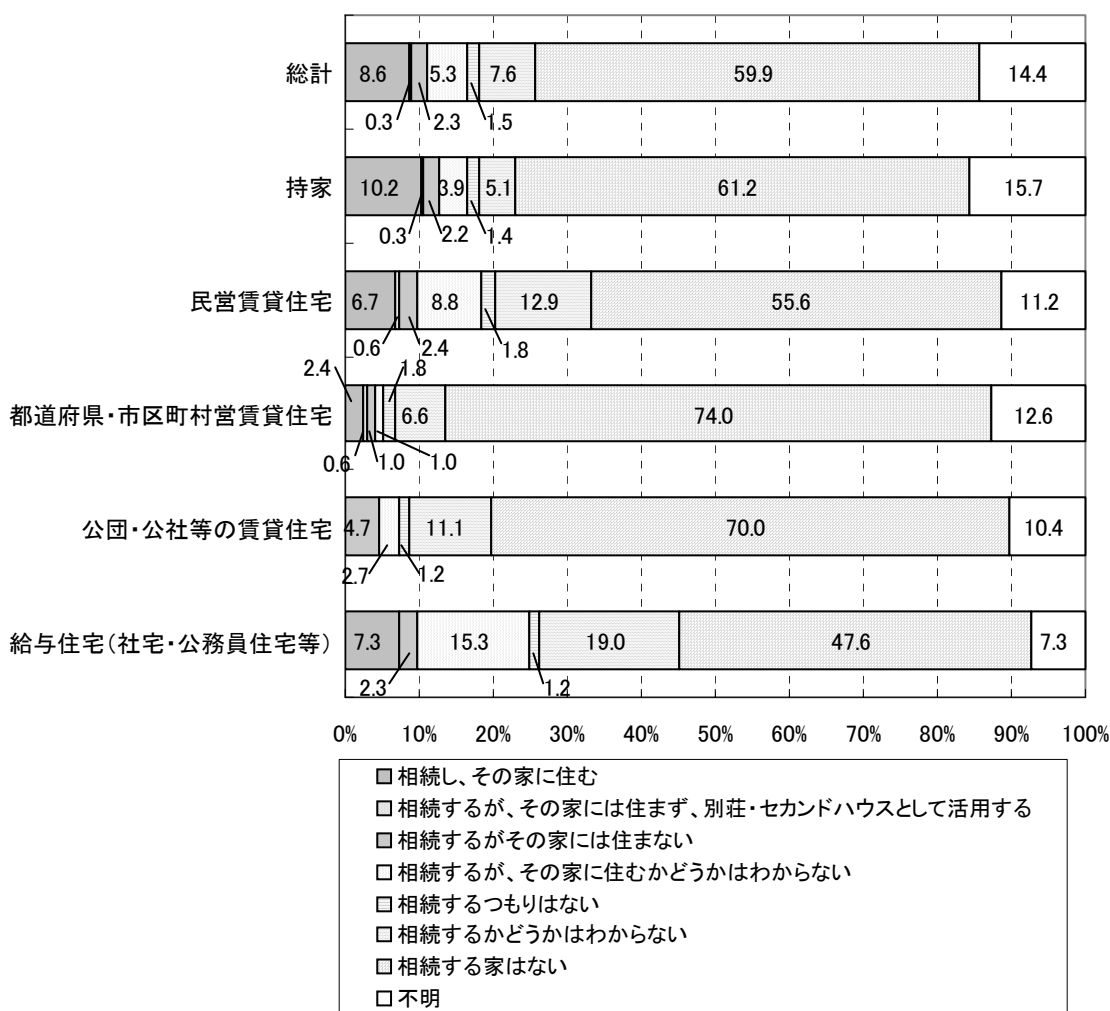
② 住宅タイプ別

将来相続する可能性のある住宅の有無と現在居住している住宅タイプの関係を見ると、「相続する家はない」とする世帯は、「都道府県・市区町村営賃貸住宅」で74.0%、「公団・公社等の賃貸住宅」で70.0%、「持家」で61.2%と多くなっている。逆に、相続する可能性のある住宅がある世帯は、「給与住宅」で45.1%、「民営賃貸住宅」で33.2%と多くなっている。

相続する可能性のある住宅の活用方法については、「給与住宅」「民営賃貸住宅」いずれでも、「相続するかどうかはわからない」、「相続するが、その家に住むかどうかはわからない」とする世帯が多い。「相続し、その家に住む」とする世帯は、「給与住宅」で7.3%、「民営賃貸住宅」で6.7%となっている。

(図-77) (表-70)

図-77 住宅タイプ別、相続する可能性のある住宅の有無とその活用方法

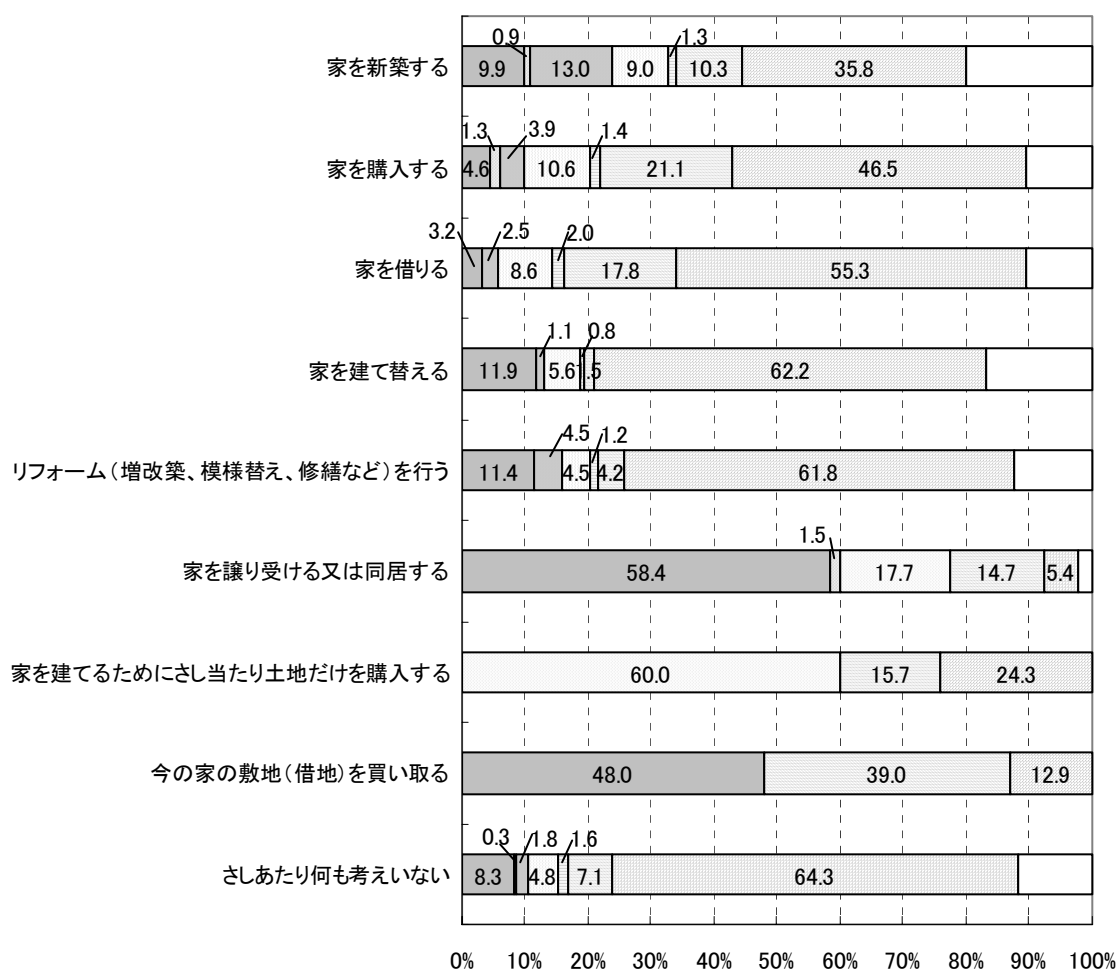


③ 住み替え・改善の意向の内容別

将来相続する可能性のある住宅の有無と住み替え・改善の意向の内容の関係をみると、「相続する家はない」とする世帯の割合は、「さしあたり何も考えていない」の中で64.3%、「家を建て替える」の中で62.2%、「リフォーム（増改築、模様替え、修繕等）を行う」の中で61.8%と多くなっている。一方、「相続し、その家に住む」とする世帯の割合は、「家を譲り受ける又は同居する」の中で58.4%、「今の家の敷地（借地）を買い取る」の中で48.0%と多くなっている。

(図-78) (表-71)

図-78 住み替え・改善の意向の内容別、
相続する可能性のある住宅の有無とその活用方法



- 相続し、その家に住む
- 相続するが、その家には住まず、別荘・セカンドハウスとして活用する
- 相続するがその家には住まない
- 相続するが、その家に住むかどうかはわからない
- 相続するつもりはない
- 相続するかどうかはわからない
- 相続する家はない
- 不明

10. 別荘やセカンドハウスの有無と保有計画

① 愛知県、地域別

別荘やセカンドハウスについて、すでに「持っている、又は借りている」世帯は愛知県全体で1.8%、今後持つ、又は借りる「計画がある」世帯は0.7%となっている。また、6.1%の世帯が「計画はないが、将来は持ったり借りたりしたい」と考えている。これに対して、「特に考えていない」とする世帯は88.8%である。平成10年調査では、「すでに取得」が2.0%、「取得を計画」が1.6%、「計画はないが将来取得を希望」が12.8%、「計画はないが、将来希望もない」が74.5%であり、それぞれ0.2ポイントの減少、0.9ポイントの減少、6.7ポイントの減少、14.3ポイントの増加となっている。

地域別にみると、「持っている、又は借りている」、「計画がある」、「計画はないが、将来は持ったり借りたりしたい」世帯の割合は、いずれも東三河が最も多くなっている。

また、別荘やセカンドハウスの活用方法としては、すでに保有している世帯では、「週末や休暇を過ごすため」という目的が最も多いのは名古屋市、尾張であるが、計画中の世帯では、名古屋市、西三河となっている。

(図-79-1～図79-3) (表-72)

図-79-1 地域別、別荘やセカンドハウスの有無

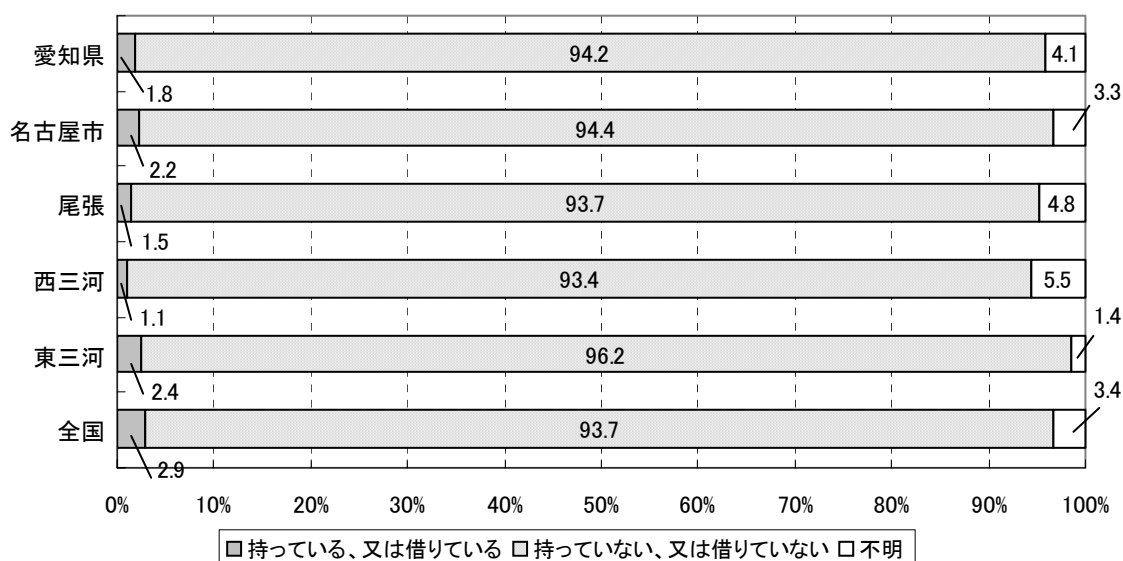


図-79-2 地域別、別荘やセカンドハウスの計画の有無

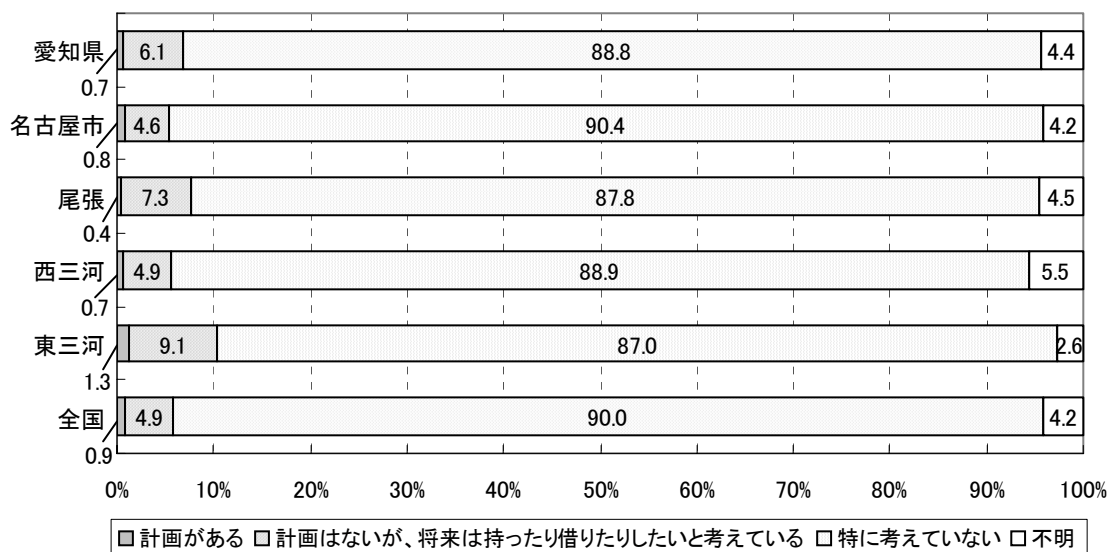
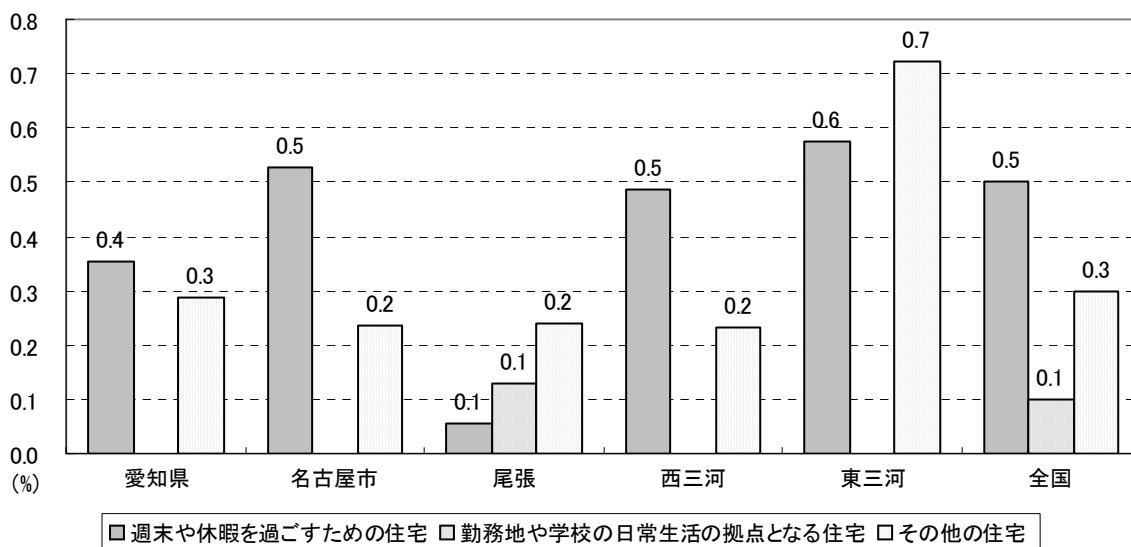


図-79-3 地域別、別荘やセカンドハウスの保有の目的〔計画のある世帯〕



② 住宅タイプ別

住宅タイプ別にみると、別荘やセカンドハウスを「持っている、又は借りている」、「計画がある」、「計画はないが、将来は持ったり借りたりしたい」とする世帯の割合は、愛知県全体では「持家」で高くなっている。地域別、住宅タイプ別にみると、「持っている、又は借りている」世帯の割合は名古屋市の「持家」で3.0%と最も高く、西三河の「借家」で0.4%と最も低くなっている。また、「計画がある」、「計画はないが、将来は持ったり借りたりしたい」とする世帯の割合は、東三河の「持家」で最も高く10.9%、名古屋市の「借家」で最も低く2.6%となっている。

(図-80-1～図-80-2) (表-73)

図-80-1 地域別、持・借別、別荘やセカンドハウスの有無

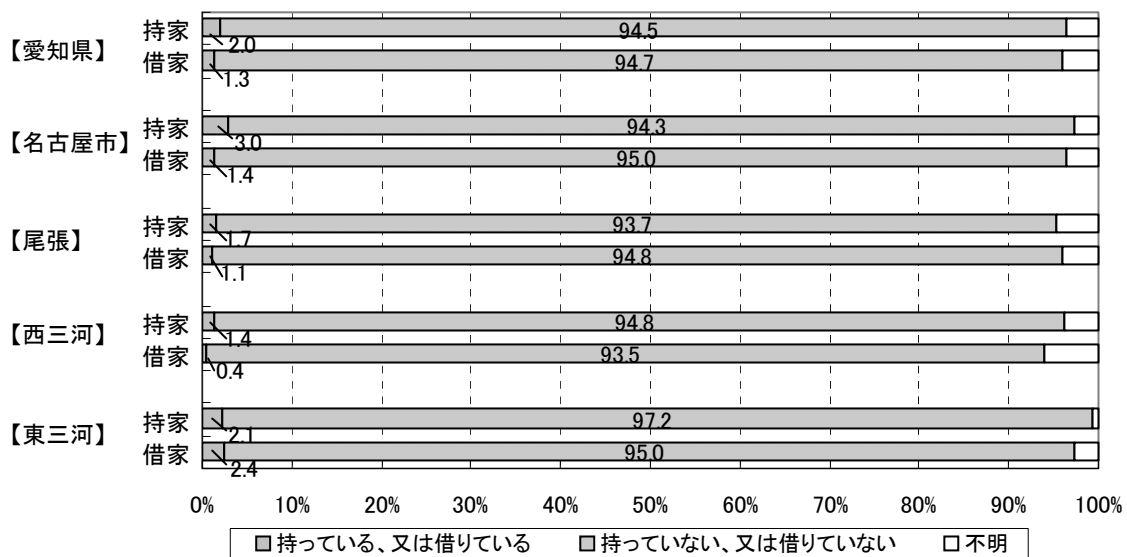
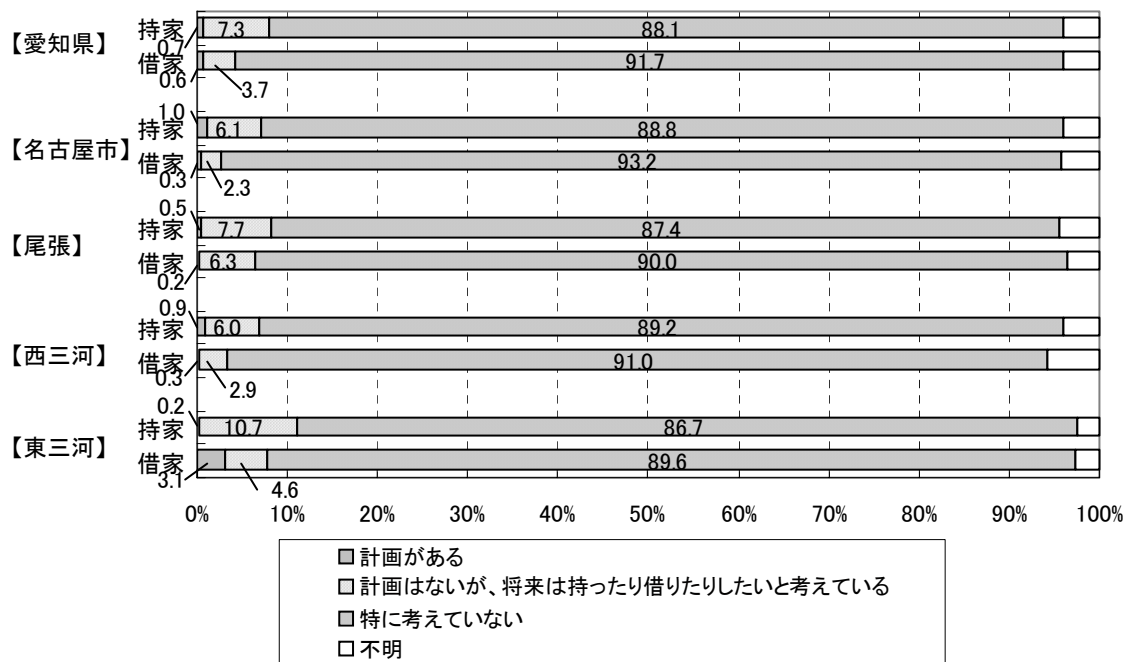


図-80-2 地域別、持・借別、別荘やセカンドハウスの計画の有無



③ 収入階層別

収入階層別にみると、別荘やセカンドハウスを「持っている、又は借りている」、「計画がある」、「計画はないが、将来は持ったり借ったりしたい」とする世帯の割合は、いずれも収入が多いほど高くなる傾向がある。特に、年収1,200万円以上の世帯では、「持っている、又は借りている」割合が8%前後あり、他の階層に比べて高くなっている。保有計画をみると、「計画がある」、「計画はないが、将来は持ったり借ったりしたいと考えている」とする世帯の割合は、年収1,000万円以上で多くなるが、年収1,500～2,000万円ですぐに割合が落ち込む。年収2,000万円以上では、「計画がある」、「計画はないが、将来は持ったり借ったりしたいと考えている」とする世帯の割合の合計は20%を超えている。

一方で、平成10年調査と比較すると、収入に関わらず、「計画はないが、将来は持ったり借ったりしたい」と考える世帯の割合は減少している。

(図-81-1～図-81-2) (表-74)

図-81-1 収入階層別、別荘やセカンドハウスの有無

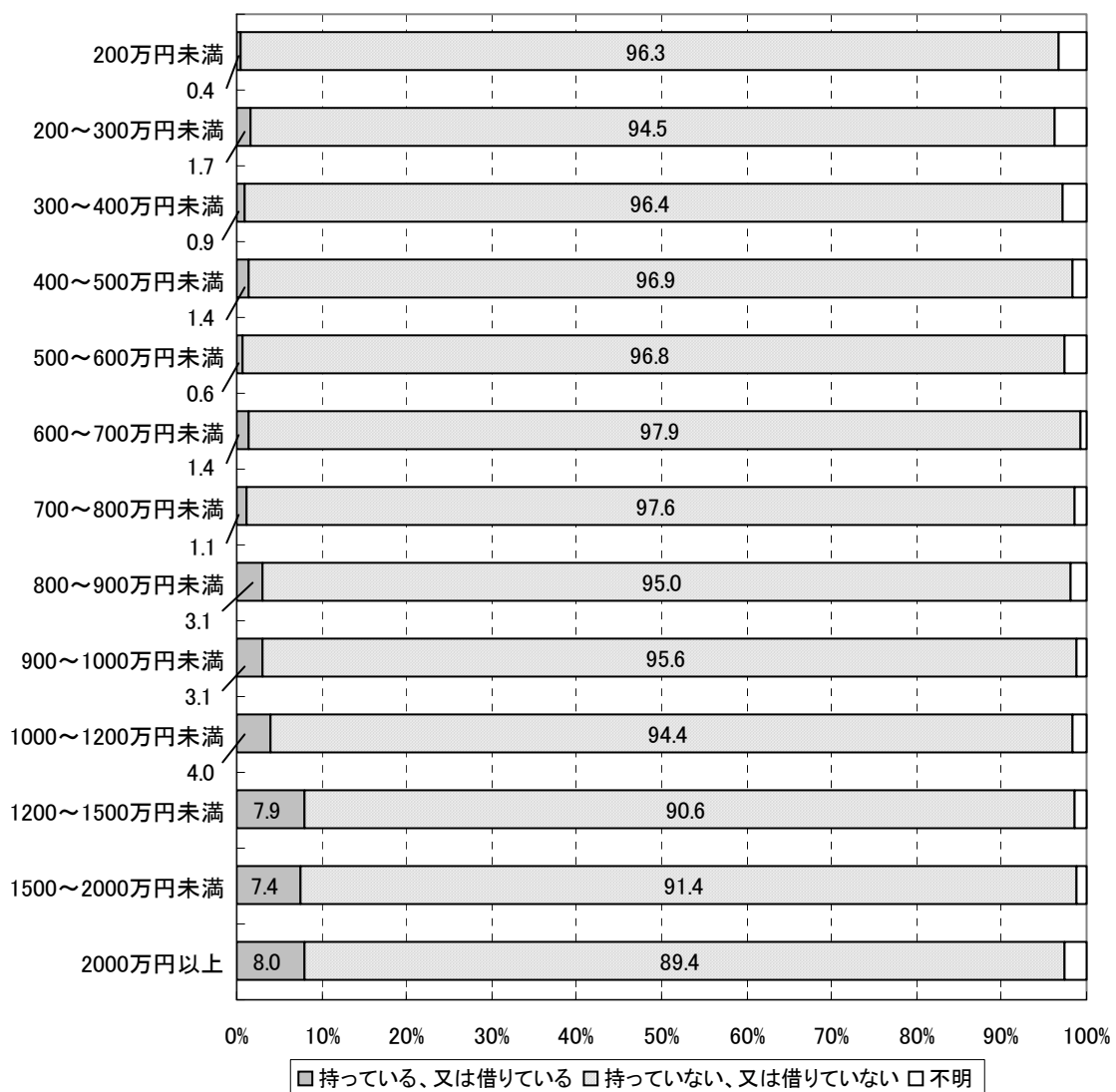
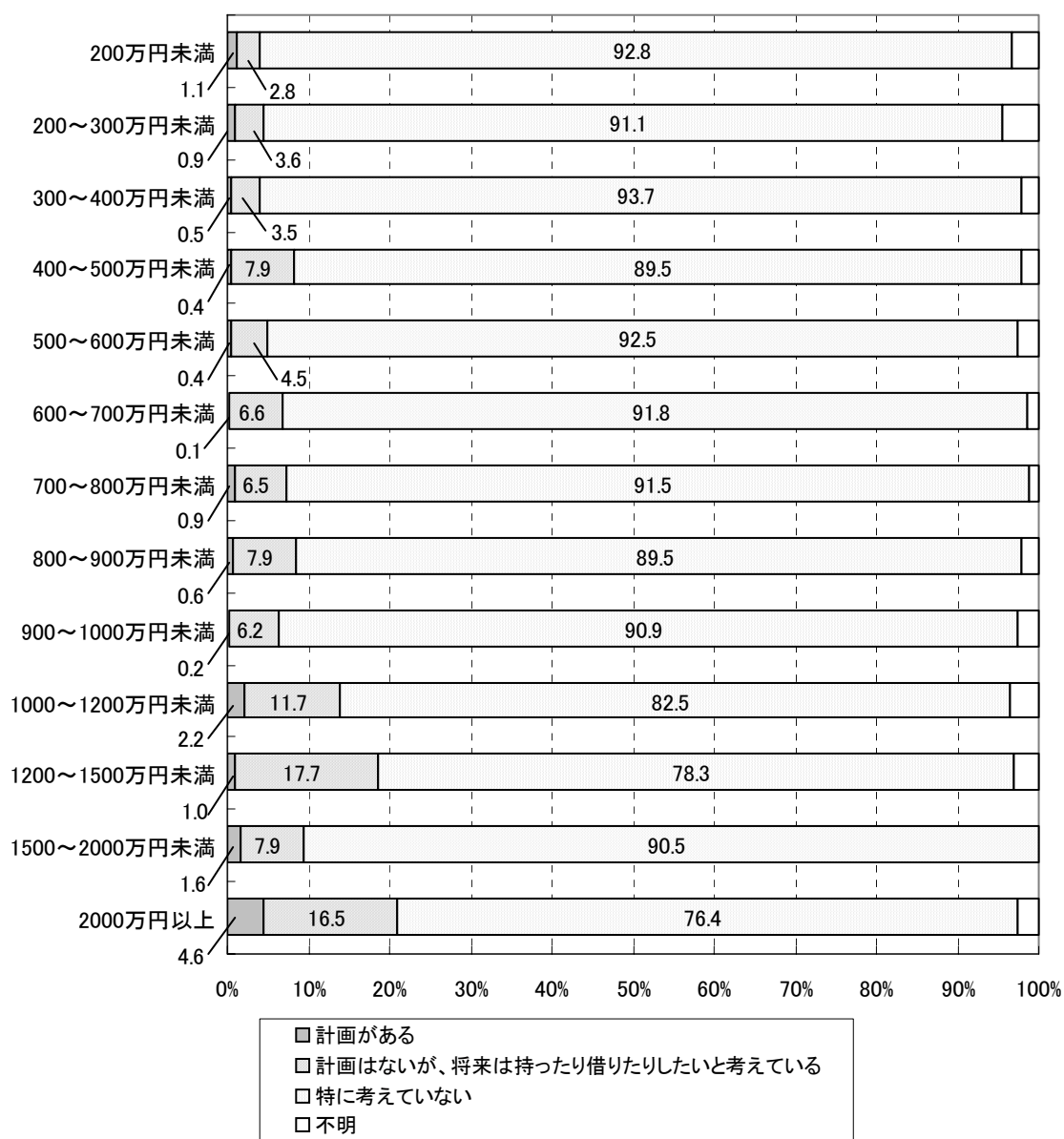


図-81-2 収入階層別、別荘やセカンドハウスの計画の有無



④ 年齢別

世帯主の年齢別にみると、別荘やセカンドハウスについて、現在「持っている又は借りている」世帯主年齢は50～54歳、65～74歳で高くなっている。また、「計画はないが、将来は持ったり借りたりしたいと考えている」割合は、40歳代から「55～59歳」で高くなっている。実際に「計画がある」とする世帯主年齢は50歳代、60～74歳で高くなっている。

(図-82-1～図-82-2) (表-75)

図-82-1 世帯主の年齢別、別荘やセカンドハウスの有無

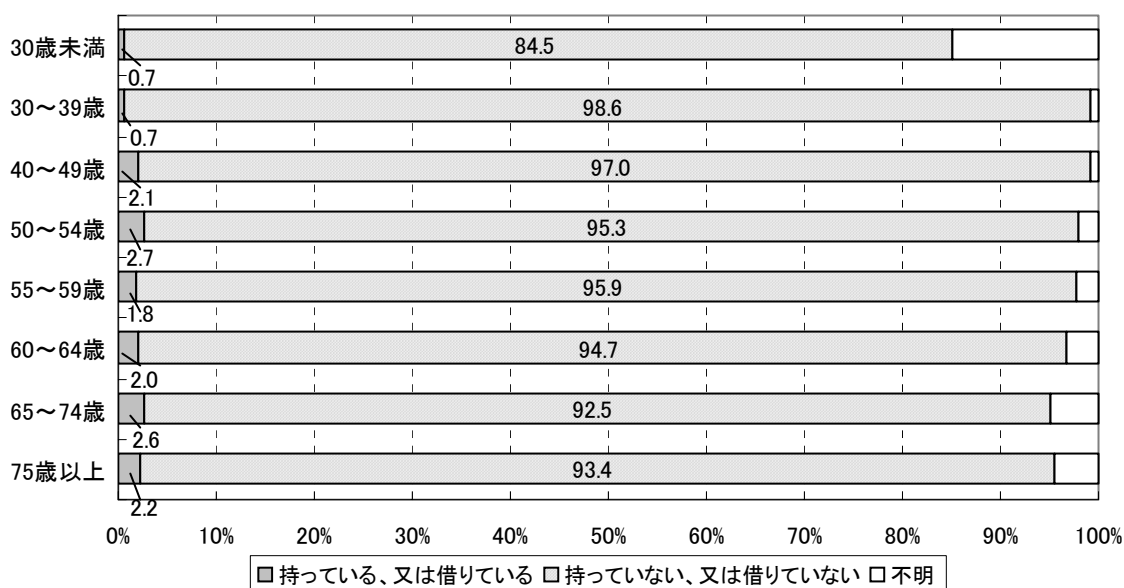
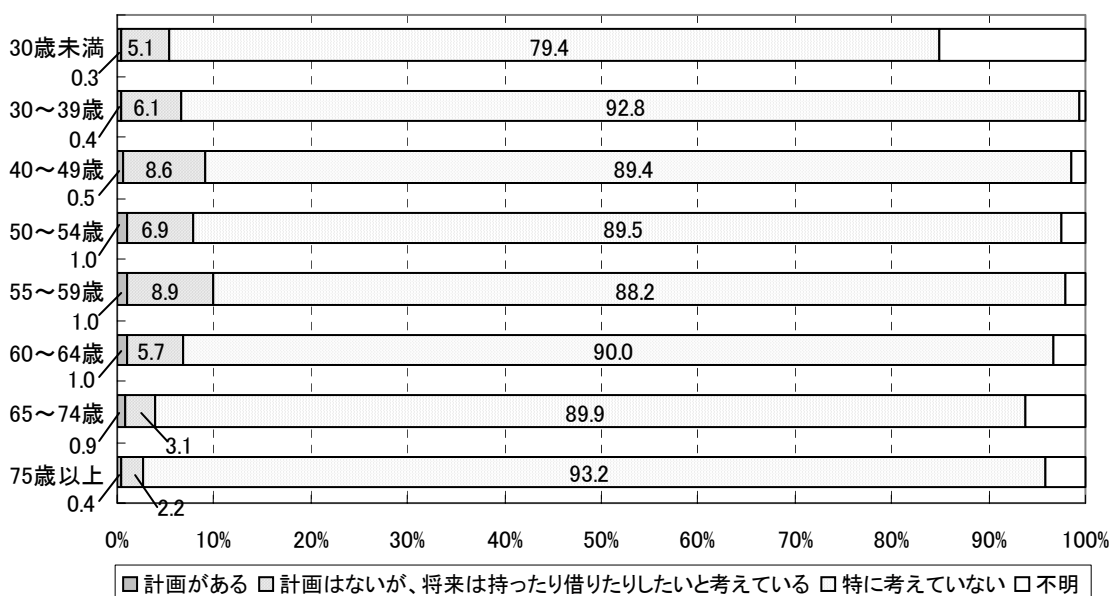


図-82-2 世帯主の年齢別、別荘やセカンドハウスの計画の有無



(以上)